

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No. 71 1999. 3

シリーズ図書館を語る	
図書館員の声	1
ゐのはな古医書コレクションをめぐる	
最近の動き	6
アダムスミスコレクションへの追加(1)	7
所蔵資料展「人生で初めて出会う本」	8
教員からの寄贈著書	9
全国国立大学大型コレクション案内	10
平成11年度附属図書館開館予定	11
図書館ホームページ新装公開	12

## シリーズ 図書館を語る

### 図書館員の声

## 図書館は現在

附属図書館情報サービス課長 北村明久

今、大学図書館は二つの大きな波に揉まれています。一つは、行財政改革、教育改革の波です。図書館の母体である国立大学そのもののあり方が問われている中、すでに図書館にも職員の定員削減、年間受入資料数の減少等が生じています。もう一つは、インターネットに代表される学術情報流通の急速な進展と媒体の多様化の波です。大学図書館では、これまでの紙媒体の学術情報に加え、電子的資料やインターネット上の情報等を利用できるようにすることが急務となっています。

大学図書館の基本的な役割は、利用者が必要とする学術情報を収集・提供することにより大学における教育研究活動を支援することです。しかし、この二つの波により、基本的な役割を果たすための手段さらに役割そのものについて改めて検討することが、それぞれの大学図書館に求められています。

「図書館を語るシリーズ」は今回で最後となりますが、ここでは本学図書館の取り組みについて、図書館本館の活動を中心にご紹介します。平成10年度は、次の三つの課題について重点的に取り組みました。

#### 課題1 図書館サービスを利用者の手に

図書館の提供するサービスや活動状況が利用者に必ずしも十分に認識されていないという反省に基づき、広報活動の充実と利用環境の改善に取り組みました。

特に館内の外国雑誌検討委員会、電子図書館推進委員会等の議事要旨を図書館ホームページや新たに刊行した教員向け図書館速報「Library Alert」で公開し、学術情報流通の現状やさまざまな問題に対する本学図書館の考え方を理解していただくよう努めました。また、各種ガイダンスを実施したり、本館利用案内のテーマ別リーフレット、留学生用利用案内、教員用本館利用案内を作成し、図書館サービス内容の周知を図りました。さらに、視聴覚資料及び機器を1ヶ所に集中する、利用者用端末機を増設するなど情報利用環境を改善しました。

また、亥鼻分館は、実技、実習の多い学生からの要望と「臨床チュートリアル」の開設に対応するため、平成11年度から授業期の平日、土曜日の開館時間を延長します。

## 課題2 図書館資料の共有、共同利用の促進

厳しい予算状況、資料価格の値上がり、特に外国雑誌価格の著しい高騰により、大学が必要とする学術資料を収集することは益々困難になっています。そのため、部局等で購入している雑誌を全学で共同利用できるよう図書館配架を促進するとともに、外国雑誌検討委員会を設け、外国雑誌の収集について検討しています。特に、部局等の予算で雑誌が購入されている現状のままでは、必要な雑誌が本学からなくなることも充分考えられるため、基本的な外国雑誌を安定的に購入する方策について検討し、その結果を提言（骨子）としてまとめました。また、学生用資料の選書についても、予算種別、あるいは資料種別毎に別々の委員会を設け選書を行っている現状を改め、平成11年度から、資料の種別によらず蔵書全体に目を配り本学の教育に必要な資料収集を行えるような分野別専門教員集団による選書組織を設け活動する予定です。

## 課題3 電子図書館的機能の検討、構築

附属図書館運営委員会の下に電子図書館推進委員会を設け、本学の電子図書館的機能のあり方について検討しました。当面は、実現可能なものから順次取り組んでいます。

1986年以前に受け入れた図書資料の目録データの入力作業（遡及入力）を開始しました。古い資料も、徐々に、オンライン目録（OPAC）で検索可能になります。学外ネットワーク情報源として電子ジャーナル（試行）やFirstSearch, Lexis-Nexis, SwetsNetなどを導入しました。この他、図書館ホームページの改訂、利用者用端末の増設、館内LANの高速化など情報基盤を整備しました。また、各種事務手続きのオンライン化についても検討しています。

この他にも、本館、園芸分館の施設の老朽化、狭隘化など取り組まなければならない課題は沢山あります。いずれにしても、これらの課題を解決するには、利用者みなさんの意見が重要なものとなります。なぜなら、最初に述べたように、図書館はあくまで利用者を支援する機関であるからです。積極的なご意見をお寄せください。

さて、本学図書館の取り組みについて述べてきましたが、図書館の職員は日頃どのような思いで働いているのでしょうか。次にご紹介しましょう。

## ある図書館員の優雅(?)な一日

本館情報サービス課閲覧係 太田 葉子

AM 8:20 図書館着。手早くエプロンを着け、ケシゴムくずが残る机の清掃をし、椅子を整える。床にはガムの包装紙が散らばり、ごみ箱にはペットボトルやカンが詰め込まれている。（館内は飲食禁止）

AM 9:00 開館。今日は、午前のカウンター勤務だ。まず、ブックポストに入っている図書の返却処理を行う。昨年4月に図書の自動貸出返却装置が入ったことを知らない利用者が結構多く、貸出カウンターへバーコードの貼付された図書を持って来た場合、この装置を使用するよう案内する。上手に使用する人もいるが、初めての場合、エラー音をひびかせるので、飛んで行く。現在閲覧室の書架上の図書にバーコードを貼る作業を行っているが、できるだけ早くすべての図書に貼って、利用者自身ができることはなるべく利用者の方へ移行し、その分のパワーを図書館員の仕事に持って行きたいものだと思う。それにしても、返却期限に遅れる利用者が多い。図書館の本は共通の財産（国有財産）という意識が希薄のようだ。利用が済んだらすぐ返してくださいと訴えたい。いざ別の本を借りたいと思った時、貸出停止という事態に慌てることもなくなるのだから。

PM 1:30 午後の勤務開始。（窓口担当なので昼休みは30分ずらして交替でとっている）

PM 1:50 午後第一回の返本作業。職員3名程度でブックトラック3～4台の返却図書を元の書架へ戻す。返本作業を行いながらそばの配列の乱れた図書も直していく。試験期の図書の配列の乱れ方はすごい。途中、通路で携帯電話をかけている学生に禁止ですよと注意し、またおしゃべりに花を咲かせている人たちにも注意する。

PM 3:30 交替の職員がカウンター業務につく。引継ぎや連絡事項があれば行う。この後の時間がゆっくり事務仕事ができる時間帯である。

PM 7:00 帰宅。

1月のある日の図書館での生活を日記風に綴ってみた。図書館の1日の入館者は約2,200人。これだけの人たちが気持ち良く図書館を利用するためにできるだけ良い環境をと考えているが、利用する側の人たちもそれなりに気を配ってもらいたいと感じる日々である。

## 私の仕事から利用者へ

本館情報管理課目録情報係 江波戸登弥子

目録情報係の主な仕事は、目録をとること——つまり図書館に入った本をOPACで探せるようにデータをとることと、分類をすること——その本がどの分野に属するものか判断して図書館のどの辺に並べるかを定めることです。

つまり結構直接的に、利用者の使い勝手に影響していると思うのですが、十分な満足を提供できているかというと、残念ながら現在のところそうではないのではないかと思います。

例えば図書館内にある本でさえ全部がOPACからは探せないこと。なまじ一部が検索できることで、そこに出ないものは無いんだとなってしまうことが結構あるのではないかと。OPACで検索できない本の計画的なデータ入力を始めたところですが、かなり時間が必要です。それで一番利用の激しいと思われる3階の社会科学、自然科学、工学の分野から取りかかっていますが、早くやってほしいところがあれば遠慮なく職員に申し出ていただければと思います。図書館としては全体を見渡した上で方針を決定するのですが、その全体というのは個々の利用者の要求の集成に他ならないのですから。

## こんにちは、文献複写担当です

本館情報サービス課参考調査係 信濃 浩子

私の仕事は他大学・機関から申し込まれた文献複写の受付と分館への依頼と分館からの受付、そしてカウンター業務です。

皆さんはカウンターで千葉大にない文献を他の大学などへ文献複写を申し込んでいますが、千葉大でも北は北海道から南は沖縄まで日本全国から申込を受け付けています。

毎日、午前と午後2回受付票を持って、図書館中を歩き回って文献の掲載されている本や雑誌を集めてコピーをとっています。

重い製本雑誌を持ったり、申し込まれたページに該当論文がないときは目次を調べたり、時々紙くずが落ちそうな古い雑誌をコピーしたり、コピーをとるのって簡単そうですが、思ったより大

変です。

今はオンラインで申し込みなどの処理ができ、申し込んだ文献を受け取るまでの日数が早くなっています。千葉大でも申込も受付も年々件数が増加していて、毎日文献複写に追いかけてられながら仕事をしています。

## こちら図書館、現場からお伝えします

本館情報サービス課参考調査係 鈴木 宏子

私が参考調査係に移ってから2年間、図書館の情報サービスの現場は、歴史的変化を遂げたと感じています。

それは、やはりインターネットによるものですが、ひとつはNACSISWebcatが公開されたこと。今まで図書館に来なければわからなかった国内の文献の所在情報が、研究室からも自宅からも検索できるこのサービスは、大変画期的でした。これにより、複写だけでなく他大学から図書を借りる件数が飛躍的に伸びました。大きさに言えば、この千葉大学の図書館を通してすべての図書館の蔵書を手にしたようなものでしょう。同時に、千葉大学の図書館も学外からの申込や来館が増大し、いろいろな人から利用されるようになったのです。

さらに情報サービスも次々に増え、CAonCDや、FirstSearch, Lexis-Nexisといった文献検索、朝日新聞全文検索、目次速報SwetsNet、さらに4月には雑誌記事索引も学内に提供する予定です。2年前と比べ、学生の調査方法も変化しています。OPACやCD-ROMで積極的な情報検索をする人が増えてきて、Yahooやgooを駆使してインターネットで情報を得る人も多くなりました。

千葉大学の図書館のホームページに来れば何でも手にはいる、そういう文字通りの情報のホームになればいいな、と思っています。もう少し欲張れば、「100冊の本」のような参加型のページによる利用者との双方向の情報交換ができ、図書や情報の「広場」的存在になりたいという理想も私は持っています。皆さんも是非参加してください。

## 働く図書館員

園芸学部分館図書係 高野 厚子

「図書館の仕事って、カウンターで本の貸出と返却をするくらいでしょ？」よく言われるのですが、実はカウンターでの貸出・返却業務は図書館の仕事のほんの一部なのです。園芸分館は4人の職員が交替で毎日カウンターに出るほか、図書館と研究室へ配架される図書や雑誌の受入、支払、目録に関する仕事や、文献複写を他大学へ依頼したり、他大学からの依頼に応じるなどの業務を行っています。図書館の仕事って、本当は結構忙しいのです。

研究室配架の図書について、利用できるまでの処理が遅いとよく言われます。大変心苦しいのですが、個人で本を買う場合と異なって、国のお金を使うため、いろいろと面倒な決まりごとや手続があったりして、時間がかかることをご理解頂きたいと思います。

## 文献複写という仕事

亥鼻分館学術資料係 富山 聡子

私は文献複写の受付を担当している。他の大学図書館や研究機関から依頼された論文のコピーをし、その機関へ郵送することが主な内容だ。ほぼ毎日、論文をコピーしている。コピーをとると聞くと、単調なものだと思われるかもしれないが、そんなことは、全くない。コピーする雑誌やページによって、それぞれ形態が違うからだ。大きさがA4であったりB4であったり、ページがきちんと開くものもあれば、開かないものもある。論文の中に写真が載っているものもあり、全てを同じ様にとることはできないのである。ただ1つだけ、どれをコピーするにも同じ様に注意することがある。コピーしたものを2つ折りにした時、中心線がきれいに合う様にするのだ。ピッタリと合った時は本当に気持ちがいい。

また、図書館に所蔵のない雑誌については、研究室・教室の方に助けてもらいながら、私は受け業務を行っている。

今日送った論文が、申込んだ先生にとって少しでも役に立つものであれば、うれしい。もしかしらば、この論文が医学の発展に繋がるかもしれない。

い。そう思うと、1枚35円のコピーが、その何倍もの価値を秘めているように感じられてくる。

文献複写とは、思う以上に魅力のある仕事だと私は思う。

## 図書の受入支払い業務について

亥鼻分館目録情報係 田久保信夫

私は目録情報係に席を置いていて、図書、雑誌の受入支払いの業務を担当しています。担当者として図書雑誌を速やかに閲覧に供し、研究室に貸し出しできるように心がけてはいますが、利用者からは、遅いとのクレームをしばしば頂く羽目になってしまうことを申し訳なく思っています。図書の購入から配架貸出迄の流れを簡単に説明します。まず、教官から購入請求書がだされ、書店を決定し発注します。図書が納品されたら検収し、書誌情報、会計情報等のデータをパソコンに入力し、機械上の支払い処理（実際の支払いは会計担当部署で処理される）をして、登録番号を付与し、図書の装備をした後配架貸出となります。図書費の残額を確認することは言うまでもありません。日数がかかってしまう原因を考えてみますと、図書発注時に書店に在庫がある場合は1-2週間程度で納品されますが、在庫がない場合は出版社から取り寄せるための日数が必要になりますし、洋書に至っては2-3ヶ月位かかってしまう場合もあります。又、洋書は為替相場の変動にあわせて四半期毎に購入価格が決まるので、決定の通知がない限りは手続きを保留するしかありません。それと、校費による支払いは、現金で支払いをする場合と違い、法律に基づく数段階の手続きを経なければならないこともあって、遅れてしまうと思われれます。利用者の要望に答えるべく速やかな配架貸出が出来るよう業務の改善を検討している所ですが、このような事情もご理解頂けたら幸いです。

## 風を感じ 少し淋しい

### 眩きかな（字余り）

本館情報サービス課参考調査係 渡辺智恵美

9時の開館を待ち侘びる顔。書架に挟まれ図書を探す真剣な目。満席の閲覧室。貸出しカウンタ

一の長蛇の列。文献複写・図書借用の膨大な申込。途切れないレファレンス質問。いわゆる試験期の、図書館の風景が、ある。

何週間か過ぎると、風景は一変する。図書館に見える学生さんの数が、減少するのだ。夏は冷房が、冬は隙間風が、妙に体に冷たく感じ出す。試験勉強の為に図書館を利用する。それは、咎める事では決してない。当然なのだ。学生さんには、それぞれの事情がある。そうではない、のだ。そうではなくて、私は、少し、淋しいだけなのだ…。

千葉大学の附属図書館は、時間の短縮日もあるが開館日が多い。私達図書館員も、勿論働いている。誰もが、直接的に、間接的に、学生さんの事を考え、良い資料との出会いを願い、働いている。試験期が終わるといつも時には、試験勉強とは関係なく、図書館まで足を運んでほしいと、呟いてしまう私なのだ。

## 本との出会い

本館情報管理課資料受入係 竹本佳永子

皆さんは本に何をもちめますか？学生の場合ですと、レポートを書くためという理由が一番を占めることでしょうか。毎日の暮らしに、なんとはなくいきづまりを感じたり、将来を考えたとき、ふと手にした本が回答を与えてくれたり、がんばろう！という力をもらったり、本も人と同じでひとつの出会いなのだと思います。

先日、食文化について調べていて偶然手にした本、三木清『生活文化と生活技術』。そこには、次のようなことが書かれていました。「生活を向上させようとするヒューマニズムの精神から、新しい生活文化が生まれる。言葉、炊事、交際、この平凡な日常こそが人間の作る文化の重要な、基礎的な部分である。とくに、婦人の果たす役割は大きい。」書かれている内容にも勿論感動しましたが、昭和16年、食べることに事欠いた太平洋戦争直前の暗い時代に、このような内容の論文を発表した哲学者がいて、それを読んだであろう婦人たち（婦人公論に掲載）がいたことにも感動しました。レポートを書くというひとつの目的のための本さがしですがそんな中でふと出会った本に、感動してしまう。こんなところに本との出会いの

大きな喜びがあるのだと思います。

でも、群集の中でひとりに出会うのが難しいように、ただぼんやり、図書館でぶらぶらしても、この一冊には出会えません。そこで、私たちの仕事（私は図書館と研究室に入る本を1冊ずつ調べて端末に入力する仕事をしています）、目録検索を大いに利用して欲しいのです。短時間で確実に多くの出会いを果たすためにも。

## 外国雑誌と紙の匂い

園芸学部分館図書係 佐藤 啓威

私の仕事の一つに外国雑誌の受入業務があります。外国から送られてくるパッケージを開けるひとときは私にとって心の和む時間でもあるのです。高校の頃、銀座の輸入レコード店を巡ることが楽しみで、そこで手にするLPレコードはビニールシールされており、味わったことのない欧米の空気が満ちているように思われました。

当時グラモフォンやCBSの盤はフランス製、ドイツ製、アメリカ製の3種類が店頭に並び、それぞれに盤質、音質も微妙に異なり、選ぶ楽しさを実感させてくれたものでした。

また、アメリカ製レコードにはLC（米議会図書館）ナンバーが記載されているものがあり、あらゆるメディアに対するカタログギングが行われていたことが窺えるのも興味深いものがあります。

一方、神田で売られていた旧ソビエト製レコードは盤質が悪く、すれ音がつきものだった上に、一種独特の匂いがついておりました。それはメディアが変わってCDの時代になってからのロシア盤にも共通して感じられる匂いだったのが不思議に思われてなりませんでした。

この長い間の疑問が解決したのは昨年のでした。寄贈で送られてきたロシアの雑誌を開封しましたら、忘れかけていたその匂いが漂いだしたのです。どうやらそれは紙の匂いそのものであったのです。

図書館職員となって日々手にするものはレコードから図書へと変わりましたが、欧文の雑誌や図書を目にするには、異国の文化に触れるような新鮮な喜びを憶え、日々の仕事の中に贅沢な時を過ごしております。

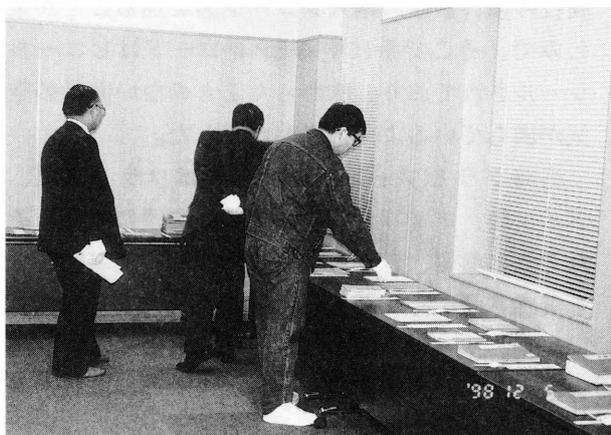
## ゐのはな古医書コレクションをめぐる最近の動き —— 洋学史研究会の開催 ——

平成10年12月5日に亥鼻分館ライブラリーホールを会場に全国的な組織である「洋学史研究会」の研究会が開催され、全国から33名の研究者が集まりました。同研究会は、分館の古医書コレクションの重要な部分を占めている蘭学図書と関係の深い分野を研究テーマとしています。

研究発表の一つとして、日本医史学会評議員で、平成6年からボランティアで当コレクションの再整理に当たっておられる樋口誠太郎氏の「千葉大学図書館亥鼻分館医学古書コレクションの内容」と題する講演があり、所蔵資料の特色などが紹介されました。

また、会場ではコレクションのうち、分館の誇る「女体解剖図（婦人臓図）」「解体新書」、ポンペのサイン入りの「Iconographie ophthalmologique」ほか100点余りが展示されました。これらのなかには文献には引用されているものの実物の所在は確認できなかった幻の資料も含まれており、参加者の関心を集めました。

参加者から「一日も早い刊行を」との声があった目録は、再整理の済んだものについて平成11年度に解題付きで発行する予定で、現在準備を進めています。



展示風景



研究会風景

## 亥鼻分館平成10年度の新規展示

- 眼球模型と経絡人形 5月14日～9月29日
- 日本の母子健康手帳2  
— 予防接種に焦点を当てて 6月2日～12月25日
- 肺炎双球菌のDNAによる形質転換 6月20日～12月18日
- 明治時代の眼科学書 9月29日～
- 培養骨格筋細胞の電子顕微鏡写真 11月24日～
- 代謝研究の巨人、H. A. クレブスの論文  
— 尿素サイクルに始まりTCAサイクルへ 12月18日～
- 昭和初期に亥鼻で生まれた看護の教科書  
— 看護婦養成における歴史的意義 2月4日～

## 〈資料紹介〉

## アダム・スミスコレクションへの追加(1)

法経学部教授 野 沢 敏 治

ここに紹介するのは、J. S. ミル『経済学原理』の第3版と第5版である。『原理』はミルの生前に7版までだされるのであるが、本学の附属図書館では既に初版と第2版を受け入れていた。

書誌は以下の通りである。

Mill, John Stuart(1806-1873)

Principles of political economy : With some of their applications to social philosophy

3rd ed; 2vols, 22cm. London : John W, Parker and son, 1852 私家用に再製本されている

Vol.1 : [i]-xx, (1)-604 Vol.2 : [i]-XV, (1)-571,(572)

5th ed; 2vols, 23cm オリジナルのクロス製本

Vol.1 : [i]-xvi, (1)-607,(608) Vol.2 : [I]-XV, (1)-591,(592),(1)-8

古典は同時代に対してだけでなく、現代にも直接語りかけてくる。ミルの『原理』がその一つである。この本について若干説明をしておきたい。

スミスが『国富論』を出版して以来、経済学はリカードやマルサス等によって、理論的な分析用具を開発して純化する点では、長足の進歩を遂げた。そのため、スミスでは古くなる。そこで、純粹経済学の成果を取り入れた新しい経済学の教科書が求められていく。

この動きに対抗して、ミルが経済学の本を書いていった。彼は認める。先端的な経済理論は現実の問題に対して、それが経済だけの問題であるようにみえても、十分に答えることはできなくなっている、と。なぜならば、当時の実際問題は新たに起こってきた社会主義思想や労働問題、環境や文明に関する問題などと絡んでいたからである。こういう状況に対して、理論を自己増殖させるだけでは役に立たないと、彼は判断した。ミルは「スミスに還れ」と言う。

このスミスの『国富論』であるが、それは当時の経済学界の議論の中からのみ生まれてきたのではない。それは今日という社会・人文科学の中から生まれたものであり、当時の一般読者や政治家には広く読まれたのである。ミルはその理由を考え、それは専門用語や理論が抽象的にそれ自体としてでなく、広大な視野の中で提示されているからだ、と、了解した。そこでミルも、スミス以降に進歩してきた精緻な理論的成果を取り入れつつ、それと現代に得られた社会思想の成果とを結合させようとする。そのために、『原理』の副題は「原理の社会哲学への適用」となっているのである。

経済学は今日に至るまでずっと、富を研究してきている。ミルもそうであって、彼は富を資本主義の大工業と世界市場の中で、どうすればうまく捉えることができるかと考えた。彼はスミスに倣って、富をヨーロッパ文明史と国際関係の広い視野の中で検討していくのである。つまり、彼はヨーロッパが狩猟・漁労の「未開」社会から商工業の「文明」社会に向けて経済発展してきている様子を、公私分業の成立や生活様式の変化、自由時間の獲得という人間的発展の観点で考察している。そしてそのヨーロッパ史をいわば「横倒し」にしてみると、世界の一方では、インディアン社会やアラブの牧畜社会・アジア的農耕社会があるかとおもえば、他方ではヨーロッパ諸列強のように資本主義的に発展したところがある。そして、ヨーロッパ・非ヨーロッパの間で南北問題の様な様相を示している。また、同じヨーロッパの中でも、国によって豊かさの程度と経済成長の速度に違いがあって、覇権争いをしている。このように世界の諸国民の間で富裕の程度に違いがあるのはなぜか。ミルはその法則の解明を、一国の内部的な自然条件や技術水準だけでなく、人間性や倫理・制度・社会関係を組み込んで考えていく。

以上の方法を指して、ミルは経済学は「道徳科学」でなければならないとした。スミスがミルによって新たな環境のなかで見事に再生されている。

さて、『原理』は長大であってそれを読み通すのは大変である。なにか良いとっかかりがないだろうか。

ミルの魅力の一つは、その構想力が際立っていることにある。その、一例——スミスの時には、

水や空気はそれがどんなに人間にとって欠くことのできないものであるとしても、無限にあるから、それらに交換価値はないとされていた。しかし、ミルの時になると、水は水道施設によって供給されるから、それは交換価値をもつと見られるようになった。この事態の変化を空気にあてはめて、水中で人間の活動がなされるようになる場合に適用してみれば、空気の供給に時間と労働がかけられるようになり、空気にも価格がつくようになることができるだろう。さらに想像を進めて、「自然界の革命」のために空気もはや自然の賜物ではなくなり、誰かに独占されるようになれば、それは高い価格をもつようになるだろう——。この推論が指し示すことは、地球環境危機や宇宙時代の今日のわれわれには経験済みの現実のものである。そして次のように言うこともできるのである。このような独占でもって利益を得ることは、重商主義的な意味で富を得るとしても、古典派的なミルからすれば、国民や人類を貧しくすること

である。この種の「貧しさ」からの解放は、まさに現在の問題であると言える。ミルの構想力はそこまでわれわれの思考を導いてくれる。

また、ミルは経済学的分析をするなかで、分析だけに止めず、当時の新しい社会的な動きであったフェミニズムや従業員利潤参加制の新しい企業組織、「生活クラブ」的なものに注目していると言ったら、人はどう思うであろうか。それらの新しい動きにミルは社会的公正や望ましきものを見るのであるが、今日の専門研究者の中には、それは科学の中に倫理や価値を持ち込むものだとして反発する者がいるであろうか。

いずれにしても、私はここに紹介する『原理』第3版を開かれることをお勧めしたい。第3版では、アイルランドの小作問題、国際的価値、社会主義思想の検討、資本蓄積と労働者階級の将来を検討する箇所、大幅な改定がなされる。第5版では、事実的な訂正や補足的な説明が各所でなされている。

### 〈ライブラリー・トピックス〉



本館では、児童文学関係の図書を中心とした所蔵資料展を平成11年2月1日から26日まで新館1階ホールで開催しました。

資料展では、18～20世紀初頭にかけて主にイギリスで刊行された絵本、童話、物語の原本のほか、「復刻世界の絵本館 オズボーンコレクション」、「復刻マザーグースの世界オーピーコレクション」、「復刻日本児童文学館」等から選んだ図書に個人所蔵のものを加え77点を展示・公開しました。

展示資料は7つのケースに分け、それぞれ次のテーマにより構成しました。①「昔話からアンデルセンへ」、②「アーサー・ラッカムを中心に」、



記念絵はがき

## 所蔵資料展

### 「人生で初めて出会う本 —児童文学の魅力」を開催

- ③「マザーグースの世界」、④「さまざまな画家たち」、⑤「近代児童文学の出発と展開—イギリス」、⑥「児童文学の「近代」—日本における出発」、⑦「児童文学の「近代」—日本における展開」。

会場では、児童文学書の持つ挿し絵や装丁の美しさなどが注目を集め、「昔読んだ本に出会えて懐かしかった」、「今後もこのような企画を続けてほしい」等の感想が寄せられました。期間中、学生、教職員を中心に一般市民も含め、約2,100人の見学者が訪れ好評のうちに終了しました。

なお、展示した資料は、展示会終了後は個人所蔵のものを除き閲覧室、貴重書室等に配架され、誰でも利用することができます。



展示会風景

## 〈ライブラリー・トピックス〉

### 情報環境の整備

附属図書館本館では、学長裁量経費、留学生経費から予算配分を受け、インターネット、視聴覚資料の利用環境の改善を図りました。どうぞご利用ください。

- インターネット用パソコン約30台を増設し、新館各階で利用できるようになりました。新館1階には中国語、ハングル対応のパソコンも用意しました。
- BS、CS放送受信システムを導入し、海外ニュースの提供を行います。新館1階ロビーでみることができます。
- ビデオオートローディングシステムを導入しました。予めセットされたビデオを自由に見ることができます。新館1階地域交流コーナー横にあります。
- この他、館内LANを整備し、高速化を図りました。

### 心理学系雑誌の集中化

文学部（認知情報科学、心理学）および教育学部（教育心理学）購入の心理学系洋雑誌は、平成11年3月までに、図書館へ返戻されました。

今回の返戻により77タイトル（継続分）が主として旧館2階の雑誌閲覧室（分類14）に配架され、一部は同3階数学系雑誌コーナーに配架されました。

昨年の化学系雑誌につづき、今回の心理学系雑誌の移管により本館への資料の集中化が更に進み雑誌の利用が一段と便利になりました。

なお、教育学部については、今回はバックナンバーのみの移管でしたが、新着雑誌についても今後検討を重ねて行く予定です。

## 教員からの寄贈著書（平成10年11月～11年2月配架分）

次の方々から著書を御寄贈いただきました。ありがとうございました。

### 〔本館〕

#### 阿部 明浩（教）

- 第42回日本学校保健学会講演集／武田敏  
〔ほか〕編 於千葉大学開催. 日本学校保健学会,  
1995（本館書庫 374.9/DAI）

#### 稲葉 弘道（法経）

- Excelで学ぶ経済統計入門／唯是康彦編著  
分担執筆. 東洋経済新報社,  
1998（本館閲覧室3階 331.19/EXC）

#### 宇佐見 寛（教）

- 作文の論理：[わかる文章]の仕組み／宇佐見寛  
編著. 東信堂, 1998（本館閲覧室4階 816/SAK）

#### 河西 宏祐（名誉教授）

- 「電産中央本部資料」「電産地方本部資料」：  
解説および目録／河西宏祐. 河西宏祐,  
千葉大学教養部社会学研究室,  
1983（本館参考 366.629/DEN）

#### 栗田 子郎（理）

- ヒガンバナの博物誌／栗田子郎著（のぎへの  
ほん）. 研成社, 1998  
（本館閲覧室3階 479.374/HIG）

#### 津田 稔（薬）

- Atomically controlled surfaces and interfaces :  
proceedings of the Fourth International Sympo-  
sium on Atomically Controlled Surfaces and  
Interfaces, Tokyo, 1997 / ed. by Minoru Tsuda  
[et. al.] . - North-Holland, 1998  
（本館閲覧室3階 428.4/ACS）

#### 土屋 俊（文）

- ノーム・チョムスキー：学問と政治／ロバート  
F・バースキー著, 土屋俊他訳. 産業図書,  
1998（本館閲覧室2階 289.3/CHO）

#### 時実 早苗（文）

- Faulkner and / or writing : on Absalom,  
Absalom! / Sanae Tokizane. リーベル出版,  
1986（本館閲覧室4階 933.7/FAU）
- The politics of authorship : Henry James's  
system of writing / Tokizane Sanae. リーベル  
出版, 1996（本館閲覧室4階 930.26/JAM）

#### 中川 裕（文）

- アイヌの物語世界／中川裕著  
（平凡社ライブラリー）. 平凡社, 1997  
（本館閲覧室小型4階 929.2/AIN）

**野沢 敏治 (法経)**

- 社会形成と諸国民の富／野沢敏治著. 岩波書店, 1991 (本館閲覧室 3階 331.32/S642)

**橋本 研也 (工)**

- 電気電子工学のためのフーリエ解析／橋本研也著. 科学技術出版, 1998 (本館閲覧室 3階 413/DEN)

**水之江 有一 (文)**

- 単一言語国家と多言語国家における異文化接触の諸問題：国際会議：報告書. 千葉大学ヨーロッパ総合研究フォーラム, 1998 (本館書庫大型 304/TAN)

**村山 元英 (法経)**

- 多元主義の経営学／村山元英監修. 文真堂, 1998 (本館閲覧室 3階 335.1/TAG)
- 経営人類学：動物的精気の間論／村山元英他著. 創成社. 1998 (本館閲覧室 3階 335.1/KEI)

**【亥鼻分館】**

**木下 安弘 (名誉教授 保健管理センター)**

- 循環器疾患マニュアル／Joseph S. Alpert [ほか] 著；木下安弘 [ほか] 監訳  
メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1998 (亥鼻閲覧室 WG141)

**里村 洋一 (病院)**

- 電子カルテが医療を変える／吉原博幸 [ほか] 著；里村洋一監修 日経BP社, 1998

**千葉大学医学部附属看護学校**

- 看護学校のあゆみ／千葉大学医学部附属看護学校編 1998 (亥鼻閲覧室 WY19)

**中野 正孝 (看護)**

- 論文が読める！早わかり統計学／ジェフリー・R・ノーマン [ほか] 著；中野正孝 [ほか] 訳  
医学書院エムワイドブリュウ, 1999 (亥鼻閲覧室 WA950)

**堀込 静香 (普遍教育)**

- 沼田真・自然との歩み：年譜／著作総目録／堀込静香編 信山社サイテック, 1998 (亥鼻閲覧室 027.38)

**山浦 晶 (医学部)**

- 小児脳神経の外科／山浦晶・森竹浩三編 医学書院, 1998 (亥鼻閲覧室 WL368)
- 脳神経外科レビュー／佐藤潔 [ほか] 編；共編 三輪書店, 1994 (亥鼻閲覧室 WL368)

(50音順 敬称略)

**全国国立大学大型コレクション案内 (平成10年度)**

ここに紹介するコレクションは、各国立大学が文部省より資料購入費の配分を受けて購入した資料のリストです。これらの資料は購入した大学の利用に限らず、全国の研究者の共同利用に供されることになっております。資料内容、利用等については参考調査係までお問い合わせください。

**【人文社会系特別図書】**

長崎大学 初期日本写真集

神戸大学 Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie

**【自然科学系特別図書】**

北見工業大学 Handbook of Ternary Alloy Phase Diagrams  
 山形大学 Landolt-Bornstein: Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology-New Series.  
 群馬大学 Handbook of Experimental Pharmacology  
 香川大学 Methods in Enzymology

**【外国図書購入費】**

東京大学 イタリア・ルネサンスの文芸原典コレクション  
 東京外語大学 朝鮮近代民族・文化運動資料コレクション  
 上越教育大学 ペスタロッチ・コレクション  
 京都大学 18世紀フランス建築・都市資料  
 九州大学 ドイツ歴史学派と政治経済学 シュルツェ・ゲーヴァニソツ所蔵

# 平成11年度附属図書館開館予定

## 本 館

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開館日	平日 9:00~21:45 (月)	12 ←				→ 6 (金)		1 ← → 29 (金) (金)	8 ← → 22 (月) (水)	6 ← → 13 17 ← → 18 (木) (木) (月) (金)			
	平日 9:00~16:45 (木) (金)	1 ← → 9				16 ← → 29 (月) (水)			24 (金)	5 14* (木) (金)	21 ← → 30 (月) (木)		
	土曜日 12:30~18:00	10 17 24	1 8 15 22 29	5 12 19 26	3 10 17 24 31		4 11 18 25	2 9 16 23 30	6 13 20 27	4 11 18	8 22 29	5 12	
	日曜日 12:30~18:00	11 18 25	2 9 16 23 30	6 13 20 27	4 11 18 25	1	5 12 19 26	3 17 24 31	7 14 21 28	5 12 19	9 23 30	6 13	
休館日	臨時休館日	30	31	30		9 10 11 12 13	30		1 2 4 5	27 28	4 15 16	29	31
	通常の休館日**	3 4 29	3 4 5		20	7 8 14 15 21 22 28 29	15 23	10 11	3 23	23 25 26 29 30 31	1 2 3 10	11 19 20 26 27	4 5 11 12 18 19 20 25 26

- (注) 1. \* 1月14日(金)は大学入試センター試験前日のため臨時に開館時間を短縮します。  
 2. \*\*通常の休館日：国民の祝日に関する法律に規定する休日、年末年始、休業期間における土曜日・日曜日。  
 3. その他特別な事情により臨時に開館時間の短縮あるいは休館をすることがあります。

## 亥 鼻 分 館

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開館日	平日 9:00~21:45 (月)	5 ←				→ 30 (金)	30 ←		→ 2 8 ← → 22 (火) (月) (水)	6 ← → 29 (木) (火)			
	平日 9:00~16:45 (木) (金)	1 2				2 ← → 27 (月) (金)			27 (月)	5 (木)		1 ← → 31 (水) (金)	
	土曜日 12:30~18:00	3 10 17 24	1 8 15 22 29	5 12 19 26	3 10 17 24 31	28	4 11 18 25	2 9 16 23 30	6 13 20 27	4 11 18	8 15 22 29	5 12 19 26	
休館日	日曜日、祝日 休日、年末年始 館内整理日	4 11 18 22 25 29	2 3 4 5 9 16 23 27 30	6 13 20 24 27	4 11 18 20 22 25	1 7 8 14 15 21 22 26 29	5 12 15 19 23 24 26	3 10 11 17 24 28 31	3 4 5 7 14 21 23 25 28	5 12 19 23 24 25 26 28	1 2 3 4 9 10 16 23 27 30	6 11 13 20 24 27	4 5 11 12 18 19 20 23 25 26

- (注) 1. 毎月第4木曜日は館内整理のため休館します。ただし、祝日に当たる場合は翌日になります。  
 2. その他特別な事情により臨時に開館時間の短縮あるいは休館をすることがあります。

## 園 芸 学 部 分 館

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開館日	平日 9:00~20:00 (月)	5 ←				→ 6 (金)	24 ← → 29 (金) (金)	8 ← → 27 (月) (月)		5 ← → 13 17 ← → 21 (木) (木) (月) (月)			
	平日 9:00~16:50 (木) (金)	1 2				9 ← → 22 (月) (水)		5* (金)		14** (金)	22 ← → 31 (火) (金)		
	土曜日 12:30~16:30	10 17 24	1 8 15 22 29	5 12 19 26	3 10 17 24 31		25	2 9 16 23 30	6 13 20 27	4 11 18	8 23 29	5 12 19	
休館日	日曜日、祝日 休日、年末年始	3 4 11 18 25 29	2 3 4 5 9 16 23 30	6 13 20 27	4 11 18 20 25	1 7 8 14 15 21 22 28 29	4 5 11 12 15 18 19 23 26	3 10 11 17 24 31	1 2 3 4 7 14 21 23 28	5 12 19 23 25 26 28 29 30 31	1 2 3 4 9 10 15 16 23 30	6 11 13 20 26 27	4 5 11 12 18 19 20 25 26

- (注) 1. \* 11月5日は戸定祭のため、臨時に開館時間を短縮します。  
 2. \*\* 1月14日は大学入試センター試験前日のため、臨時に開館時間を短縮します。  
 3. その他特別な事情により、臨時に開館時間の短縮あるいは休館をすることがあります。

## 図書館ホームページ新装公開



1994年の公開からはや5年、草分け的存在であった千葉大学附属図書館ホームページもそろそろ見直しが必要になってきていました。

そこで、見た目にすっきりして使いやすいレイアウトを目指して、館内職員によるデザインコンペを実施し、新しいデザインで再出発することになりました。

必要なニュースや情報に即座にアクセスできるように、また初心者の方も使いやすいように、トップページを工夫しました。

大変使いやすくなったのではないかと自負しております。どうぞご活用ください。

### 行事日誌 (平成10年12月～平成11年2月)

- |       |  |       |                                    |
|-------|--|-------|------------------------------------|
| 12月1日 | 国立大学図書館協議会シンポジウム<br>～2日 (於：東北大学)                                     | 2月8日  | 平成10年度第3回附属図書館亥鼻分館<br>将来計画検討専門委員会  |
| 1月20日 | 平成10年度国立大学事務部長会議<br>～22日 (於：三重大学)                                    | 2月17日 | 平成10年度第3回附属図書館<br>電子図書館推進委員会       |
| 1月22日 | 千葉市図書館情報ネットワーク協議会<br>(於：千葉市コミュニティーセンター)                              | 2月17日 | 平成10年度第2回附属図書館<br>自己点検・評価委員会       |
| 1月25日 | 電子ジャーナルフォーラム<br>(於：東京大学)   | 2月17日 | 平成10年度第2回附属図書館<br>共通基本図書選定委員会      |
| 2月8日  | 日米間に於けるドキュメント・<br>～10日 デリバリーサービスの改善に関する<br>ラウンドテーブル<br>(於：東京ガーデンパレス) | 2月18日 | 平成10年度第3回附属図書館<br>亥鼻分館運営委員会        |
| 2月8日  | 平成10年度第2回附属図書館<br>亥鼻分館自己点検・評価委員会                                     | 2月22日 | 国公私立大学図書館協力委員会<br>(臨時委員会) (於：東京大学) |

千葉大学附属図書館報 [図書館の本] No. 71 平成11年3月30日発行

発行 千葉大学附属図書館 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33  
Tel. 043-251-1111(代) Fax. 043-290-2266 URL: http://www.ll.chiba-u.ac.jp/

千葉大学附属図書館報

**図書館の本**

No. 72 1999. 7

写真とエピソードで綴る図書館の50年	1
ガイダンス実施報告	4
新情報環境の整備・公開	5
ライブラリートピックス	6

千葉大学創立50周年記念特別企画

**写真とエピソードで綴る図書館の50年****館報編集委員会**

“附属図書館本館は昭和24年5月、千葉大学の創立とともに設けられた。当初は、館もなければ館長もない、その上図書も持たないという、無形の観念にすぎない図書館であった。……”

『千葉大学三十年史 第14章附属図書館』の冒頭である。

附属図書館では、今年で50周年を迎える機会をとらえ、先達の努力のおかげで今日があることを自覚すべく過去をふり返ってみた。

過日、定年退職された方々に昔日の図書館について語ってもらおうと懇談会を企画し、参加を依頼する案内状を送付した。6月5日（土）午後、

当日都合がついた元図書館職員5名と現職員8名が参加し懇談会が附属図書館長室で開かれた。当日の参加者には前もって古い写真があればご持参願いたい旨を伝えてあったので各自思い出の写真を持ち寄り、図書館側も昔の親睦会のアルバムや過去の蔵書印のコピー（注1）等を用意し、それらを回覧しながらなごやかに行われた。

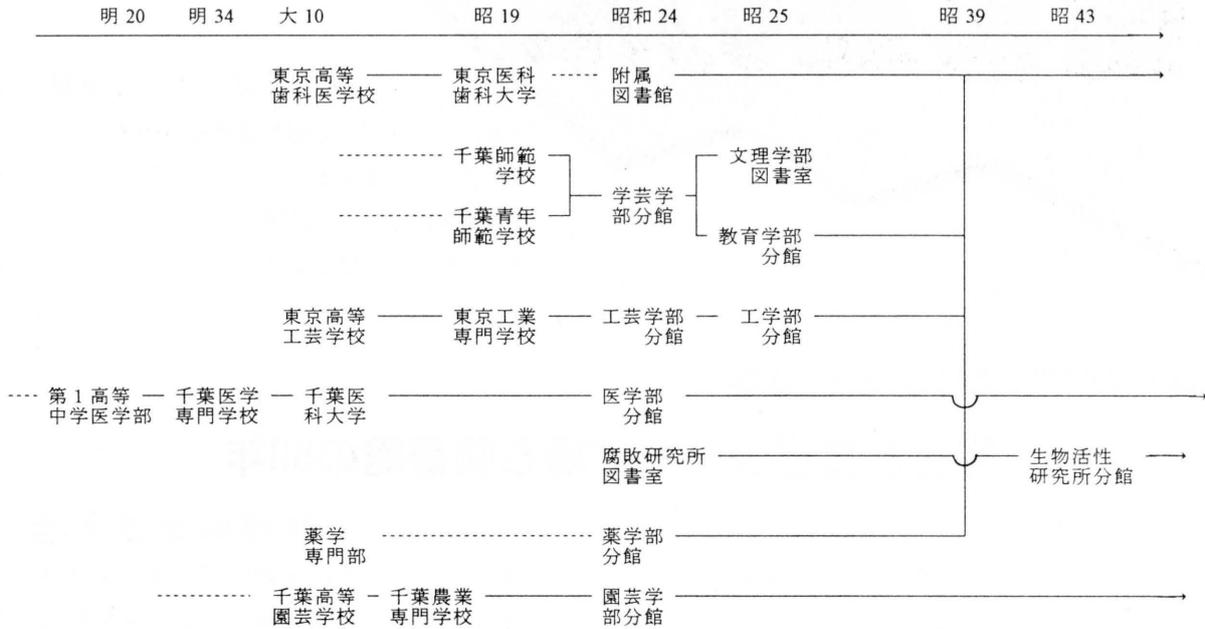
写真と懇談会の話をちりばめ附属図書館の50年を紹介したいという意図であるが、もとより詳細な正史は千葉大学50年史編纂事業として進められているので、今回の記事はタイトルにあるようにエピソードで綴るいわば番外編である。



図書館本館（西千葉） 昭38. ～ 昭43.

先ず、50年をふりかえるにあたり簡単に千葉大学附属図書館のあゆみをまとめた。

千葉大学附属図書館のあゆみ（昭和43年まで）



(注1) 1988年に千葉大学の蔵書が100万冊を超えたのを記念し、「蔵書印の変遷」展を開催した時の資料。

(写真説明)

がり版刷り『図書館資料展示会目録』によると、

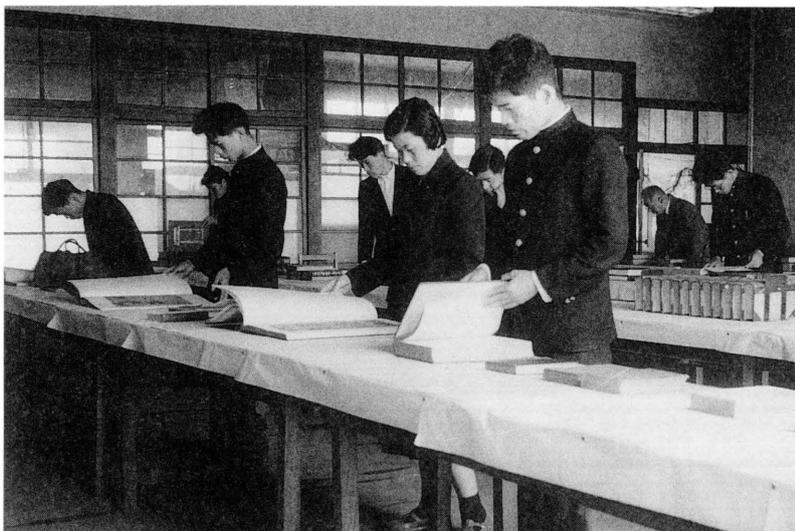
昭和29年11月1～3日  
於附属図書館閲覧室

内容は、

本館所蔵

- 第二時<sup>マ</sup>世界大戦  
米国版 日本戦争  
—写真記録  
米国陸軍省編 1952
- ベーコン全集 全5巻  
1778年版 等30点  
参考品 (吉武教授所蔵)
- 日本における洋学発達の跡  
(英米文学を中心とする)  
関係資料25点

他、医学部分館所蔵、薬学部分館所蔵、園芸学部所蔵の図書等  
総計70点



(写真：中山氏所蔵)

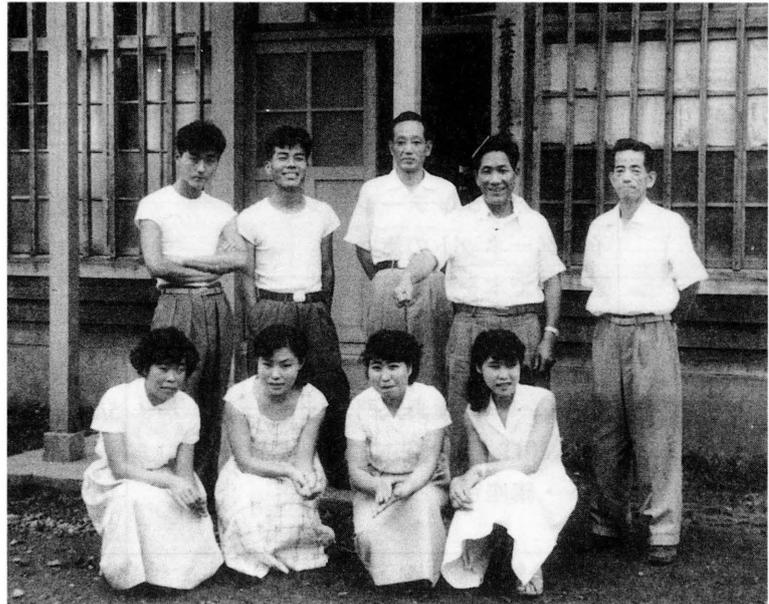
**(写真説明)**

右の写真は、千葉市小中台町にあった図書館。(昭和32年)

陸軍防空学校の敷地に残された建物を改装したもの。現在の千葉市立北部図書館付近に正門があり、門には附属図書館の看板が掛かっていた。

木造とわかる格子窓が時代を伝えてくれる。人物の中に数年前定年退職されたI氏の青春の姿が見られる。

Nさんによると「この図書館は、非常に暑くIさんは首にタオルをかけていた」というが、そのスタイルはいくつになっても変わらなかった。

**直径10cmの蔵書印**

☆懇談会は、N氏の発言により始まった。特に印象に残っていることをたずねられ蔵書印について話された。両手の指で輪をつくり(直径10cmほどか)「こんなに大きくて鋳物製でとても座っては押せなかったですよ。」と言い、この蔵書印は新制医学部で使用していたもので、医学部には当時大学の事務局があり、医学部が千葉大学の本部であるという自負が感じられたと言う。

現在の西千葉地区に各分館が統合された昭和39年までこの蔵書印は使用されたが、その後の行方は不明という。押印された図書で形状がわかるのみである。

**分類と目録の勉強ばかりだった**

☆I氏の思い出は、分類の講習会でしかられたことだと言う。当時の事務長と主任司書による分類の講習会が月1回ほど開かれ各分館の担当者も参加しており、I氏は「私が提出したカードが訂正なしで戻ってきたことがなかったよ」と当時をふりかえりました。整理重視の図書館業務が目に見えるようですが、当時の分類はNDC(日本十進分類法)にUDC(国際十進分類法)を取り入れた独自の分類でした。

現在、わずかに残っているカード目録の中に第4次区分のあと括弧に括った数字で展開しているカードが散見できます。図書データの遡及入力が進行中ですが、完成の時がこれらカード目録の終焉でしょうか。

**男尊女卑?**

☆Nさんの「今でもカードがたまっている夢を見ます」の言葉に笑いと情を同じくする感嘆の声が出たのは、カードボックスの前で一度ならずため息をついた経験をもつ現職員でした。Nさんは、さらに当時のことを「女性は男性より早く出勤して男性が出勤する8時半にはお茶を入れなくてはならないという考えの事務長でした。」と話してくれました。数年前まで本学附属図書館にいた男性職員は、早く出勤し大きなやかんをガスコンロにかけるのを日課にしていたのですが、その考え方に隔世の感をおぼえます。

**千葉大学のお宝**

☆K氏は、分館が附属図書館に統合される時に工学部分館から来ました。「工業意匠(インダストリアル・デザイン)関係の図書が前身の東京高等工芸学校時代から引き継いでおり、貴重なものがずいぶんあるよ。」と話されました。知る人ぞ知る旧東京高等工芸学校蔵書は、現在書庫に納められていますが、今年度の科学研究費をいただき、データベース化する予定です。完成すると資料は新たな日があたることになります。

☆話題はあちらこちら、昔のことやら今のことへと飛びながら約1時間余がたちこらでティータイムになりました。

(次号へ続く)

## ガイダンス実施報告（平成11年4－5月）

内 容	日程	回数	参加者数
<b>[本館]</b>			
新入生オリエンテーション	4/9,12,13	48回	355名
インターネットの使い方	4/14,15,16	12回	155名
図書館で本を探すために	4/19,20,21	6回	44名
留学生ライブラリーツアー	4/28	1回	11名
OPAC・Webcat 入門	5/11,14	2回	3名
データベース検索入門 (PsycLIT・LEXIS-NEXIS・CAonCD)	5/24, 26, 31	3回	125名
ゼミ・講座別ガイダンス	4/19, 23, 26, 4/28,5/20, 27,	8回	133名
<b>[亥鼻分館]</b>			
新入生オリエンテーション	4/8,13,15,28	4回	182名
進級生利用ガイダンス	4/6,9	2回	200名
文献検索ガイダンス	4/9,12,14,21, 5/11,12,26	7回	376名
CD-ROM文献検索ガイダンス	4/14,28, 5/18,19	5回	151名
<b>[園芸学部分館]</b>			
園芸学部分館利用ガイダンス	5/14	1回	4名

**[本 館]**

「新入生オリエンテーション」、「インターネット」、「図書館で本を探すために」の基本的ガイダンスは、昨年より大幅に参加者が増加し図書館やインターネットに対する関心の高さが感じられました。5月の「データベース（PsycLIT・LEXIS-NEXIS・CAonCD）検索入門」についても、昨年に引き続き多くの参加がありました。

また、「ゼミ・講座別ガイダンス」の申込みも増え、4－5月で8回実施し延べ133名の参加がありました。「ゼミ・講座別ガイダンス」は、学年次や専門分野、人数に合わせて内容が組めるため授業の1コマとして希望される教員の方が多かったようです。

6月以降は、「OPAC・Webcat 入門」と「雑誌記事索引入門」で、利用者に基本的な検索スキルを身につけてもらうよう、力を入れていく予定です。

**[亥鼻分館]**

新学期はオリエンテーションと文献検索を中心にガイダンスを開きました。

今年度は、看護学部から学生には早い時期から

文献検索法を身につけてもらいたいので1年次から文献検索ガイダンスをとの要望があり、今まで行っていなかった年次も含め看護学部の各年の全学生に対して行っています。内容は冊子体の二次資料と、インターネットやCD-ROMの利用方法からなっています。

6月以降はCD-ROM文献検索ガイダンスを中心に開く予定です。効率的な検索をするためにぜひご参加ください。

**[園芸学部分館]**

今年は「園芸学部分館利用ガイダンス」という、園芸分館全般の利用案内的なガイダンスを開きました。

内容的に、松戸キャンパスに来たばかりの2年生及び大学院新入生を主な対象としたオリエンテーション的なガイダンスを目指したのですが、当日の参加者は4名にとどまり、PRの仕方について、また利用者が望むガイダンスについて考えさせられました。

「こんなことが知りたい」という要望があれば是非お寄せ下さい。今後の参考にさせていただきます。

## 情報環境設備の整備・公開

附属図書館では、情報環境設備の整備を行い、公開しました。

4月26日、磯野学長など約40名の出席のもとに記念式典をホールにおいて開催しました。土屋館長から設備整備の謝辞が述べられ、続いて学長によりCS放送の電源投入が行われました。

今回整備された情報環境設備は以下のとおりです。

### 1) インターネット用PC、情報検索用PCの増設、留学生用PCの新設

#### ・インターネット用PC

22台増設し、従来分6台と合わせ、計28台となった。1階に20台、2階に6台、3・4階に各1台配置し、利用しやすい環境をめざしました。

#### ・情報検索・CD-ROM用PC

3台増設し、従来分7台と合わせ、計10台となりました。

#### ・留学生用PC

中国語対応PC2台、韓国語対応PC1台を設置しました。留学生が母国語でインターネット等を利用し、情報の収集・発信ができます。

### 2) CS・BS放送受信設備の設置

CS・BS用の受信装置を1階ホールに設置し、海外放送(CNN、BBC)、衛星放送(NHK衛星第1)を流しています。



4月26日 新しい情報環境御披露目式

### 3) ビデオ自動視聴システムの設置

ビデオガイドシステムにあらかじめ25本のビデオテープをセットしておき、利用者はモニター手前のリクエストパネルから見たいテープを選択し、視聴できます。設置場所は1階ホール地域交流コーナー手前。

\*ビデオ自動視聴システムには、常時「図書館の達人」シリーズをセットし、ご利用をお待ちしています。このシリーズは、ドラマ仕立てで図書館の様々な利用法をわかりやすく、おもしろく紹介しています。

内容：図書館の機能、文献検索の基礎、雑誌記事の調べ方、レポート・論文のまとめ方、情報検索入門

## 附属図書館事務組織の統合・再編

附属図書館事務部は、4月1日から、学内事務組織の再編に伴い、亥鼻分館の事務長制が廃止され、本館と亥鼻分館の事務組織が統合されました。また、職員数が減少する中で、利用者サービスを充実すると共に、電子的資料、ネットワーク情報源の利用など新しい要求へ対応するため、系の統合・再編を行いました。

### 附属図書館事務組織

#### 情報管理課—総務係（図書予算に関すること）

- 図書情報係（本館における図書の収集・受入に関すること）
- 雑誌・電子情報係（本館における雑誌・電子情報の収集・受入、システム管理に関すること）
- 亥鼻情報係（亥鼻分館における図書・雑誌・電子情報の収集・受入に関すること）

#### 情報サービス課—閲覧サービス係（本館における図書の閲覧・貸出に関すること）

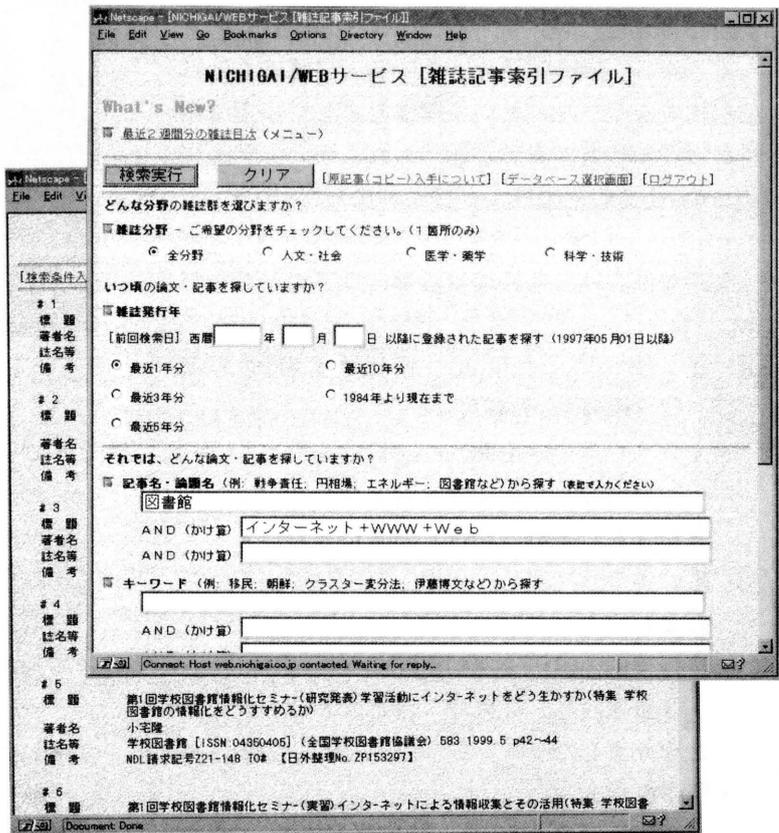
- 相互利用係（本館における学外からの文献入手、雑誌の閲覧に関すること）
- 参考調査係（本館におけるレファレンス、情報検索に関すること）
- 亥鼻サービス係（亥鼻分館における図書・雑誌の閲覧、学外からの文献入手、レファレンスに関すること）

## 【新情報検索サービスのお知らせ】

附属図書館では、平成11年5月より「雑誌記事索引 (NICHIGAI/WEB)」を学内から検索できるサービスを開始しました。

「雑誌記事索引」は、国立国会図書館が収集する国内刊行の雑誌のうち、学術誌・大学紀要・専門誌を中心として、人文・社会関係 約3,200誌、科学・技術・医学・薬学関係 約2,300誌の記事論文を検索できる国内最大の雑誌記事データベースです。NICHIGAI/WEBサービスは、1984年以降120万件の記事情報を収録し、毎年25万件増加しています。

千葉大学では、IPアドレス認証接続により、パスワード不要で学内LANに接続されたPCから「雑誌記事索引」を検索できます。同時アクセス可能ユーザーは5名です。



他に、平成11年より開始された情報検索サービスは、以下の通りです。

### 1月 朝日新聞全文検索

SwetsNet (外国雑誌目次速報)

MathSciNet (Mathematical Reviewの書誌と全文検索)

### 4月 PsycLIT (心理学文献データベース)

詳しくは、図書館HPの検索サービス一覧(<http://www2.11.chiba-u.ac.jp/~san/libguide/databases.htm>)をご覧ください。

## 【亥鼻分館で開館時間を延長 (試行)】

亥鼻分館では、平成11年4月から開館時間延長を試行中です。

開館時間は月曜日から金曜日が9時から21時45分まで、土曜日は12時30分から18時までと、本館と同じになりました。

なお、日曜日、祝日は休館、夏休み等の学生の休業期間中は平日のみ開館で、16時45分に閉館となります。

## 【園芸学部分館からのお知らせ】

園芸分館では、昨年度末留学生課から予算配分を受け、留学生向け資料の大幅な充実をはかりました。購入した資料は、アジアの農業に関するものや、経済統計資料、FAO (国際連合食糧農業機関) 関係資料などです。一般の書架に配架され、留学生以外の人でも利用できます。どうぞご利用ください。

## 〈ライブラリー・トピックス〉

### 【附属図書館講演会の開催】

6月25日(金)附属図書館ライブラリーホールにおいて「能動的利用者サービスとしての情報リテラシー教育」をテーマに附属図書館講演会を開催しました。

初めに2名の講師の方に下記の講演をしていただいた後、参加者を交え図書館利用教育についてディスカッションを行いました。

1. 上原 恵美氏 (琉球大学附属図書館情報サービス課電子情報係)  
「琉球大学附属図書館における情報リテラシー教育の実践について」
2. 鈴木 宏子氏 (千葉大学附属図書館情報サービス課参考調査係)  
「千葉大学附属図書館における利用者ガイダンスの現状」

講演では、それぞれの大学における位置付け、活動状況及び今後の課題等について述べられました。特に大学図書館の存在意義をアピールする機会として積極的かつ戦略的に取り組むことが重要であること、また、広報の重要性、教員(教育活動)との連携、そして図書館職員自身の情報リテラシーの習得の必要性など、豊富な経験にもとづいた示唆に富んだ内容でした。

当日は、千葉県大学図書館協議会加盟館7館からの参加者を含め約50名の参加者がありました。図書館利用教育は、大学図書館にとって共通した課題の一つであり、講演後は、学外から参加者の質問もあり活発なディスカッションが行われました。

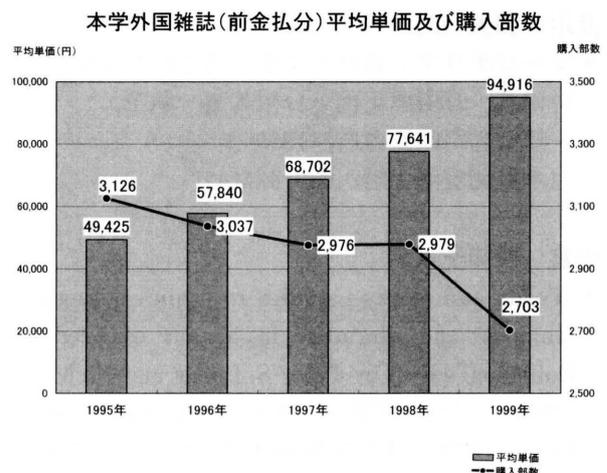
### 【千葉市立図書館対象 インターネット研修会開催】

6月24日(木)、千葉市立図書館の職員の方を対象にインターネット研修会を開催しました。北部図書館ほか5館から13名の参加者がありました。インターネットの概要説明、館内見学、NACSIS-CATによる目録業務の見学の後、参加者自身にパソコンを操作してもらい自由にインターネットの世界を体験してもらいました。

千葉大学附属図書館は、千葉市内の大学図書館、公共図書館、研究機関の図書館、企業の図書館等と千葉市図書館情報ネットワーク協議会を形成し、市内の各種図書館との連携・協力を努めています。この研修会はその活動の一環として行われたものです。

## 外国雑誌購読価格の変動

本学で購入している外国雑誌のほとんど(購入部数の99%以上)は、その契約方式から前金払雑誌といわれます。本学における前金払外国雑誌の購入状況は、最近5年間に大きな変動を見せています(右図参照)。各大学で話題となっている外国雑誌購読価格の高騰化の現象は、本学の平均単価の推移を見ても明らかであり、1999年の平均単価は、1995年の値と比較すると92%も上昇しています。一方、購入部数は、価格上昇と逆比例するように、同時期に14%減少しています。特に、昨年度から本年度の変化は著しく、平均単価は22%上昇し、購入部数は9%減少しています。外国雑誌購読価格の上昇は今後も続く見込みであり、外国雑誌の収集が益々難しくなります。



## 教員からの寄贈著書 (平成11年3月～11年5月配架分)

次の方々から著書を御寄贈いただきました。ありがとうございました。

### [本館]

#### 秋元 英一 (法経)

- 世界大恐慌：一九二九年に何がおこったか／秋元英一著。－講談社，1999  
(本館閲覧室3階 337.99/SEK)
- 冷戦後の世界における経済と社会の地域的再編に関する比較社会経済史的考察：千葉大学大学院社会文化科学研究科研究プロジェクト研究成果報告書。研究代表者。－千葉大学大学院社会文化科学研究科，1999  
(本館学内出版物コーナー 332.06/REI)

#### 阿部 清司 (法経)

- タイ経済病と自助努力／阿部清司著 (千葉大学経済研究叢書；3)。－千葉大学法経学部経済学科，1999 (本館閲覧室3階 332.237/TAI)

#### 新井 誠 (法経)

- 高齢化社会における家族問題と消費者問題の比較法的研究：研究プロジェクト報告書 研究代表者。－千葉大学大学院社会文化科学研究科，1998 (本館学内出版物コーナー 324.6/KOU)

#### 内間 直仁 (文)

- 琉球方言音韻・文法・語彙の研究 その1／内間直仁編 (千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書 第2集)。－千葉大学大学院社会文化科学研究科，1999  
(本館学内出版物コーナー 818.99/RYU)

#### 及川 和夫 (文)

- マージナリア：隠れた文学，隠された文学／村田薫，森田典正編 分担編集・執筆。  
－音羽書房鶴見書店，1999  
(本館閲覧室4階 930.4/MAJ)

#### 小倉 美知子 (文)

- Words and works : studies in medieval English language and literature in honour of Fred C. Robinson/edited by Peter S. Baker and Nicholas Howe. 分担執筆。－University of Toronto Press，1998 (本館閲覧室4階 830.23/WOR)

#### 金子 亨 (名誉教授)

- 先住民族言語のために／金子亨著。－草風館，

1999 (本館閲覧室4階 802/SEN)

- ユーラシア少数言語文化の現状と課題：千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告 研究代表者。－千葉大学大学院社会文化科学研究科，1999 (本館学内出版物コーナー 802/YUR)

#### 神 陽 (名誉教授)

- 磁気工学の基礎と応用／電気学会マグネティック技術委員会編 分担執筆。－コロナ社，1999 (本館閲覧室3階 427.8/JIK)

#### 佐藤 博信 (文)

- 里見氏稲村城跡をみつめて 第3集／里見氏稲村城跡を保存する会編 分担執筆。－里見氏稲村城跡を保存する会，1998 (本館書庫 213.5/SAT)
- 小田原市史：通史編：近世／小田原市編 市史編さん委員。－小田原市，1999 (本館書庫 213.7/O17)

#### 鈴木 春男 (文)

- NPOとその周辺／鈴木春男，尾形隆彰編 (現代都市空間における生活の変容／メディアの変容；2) 千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書。－千葉大学大学院社会文化科学研究科，1999 (本館学内出版物コーナー 335.8/NPO)

#### 滝藤 満義 (文)

- 日本近代文学と家族／滝藤満義編 (千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書 第1集)。－千葉大学大学院社会文化科学研究科 1999 (本館学内出版物コーナー 902.09/NIH)

#### 土屋 俊 (文)

- キャンパス情報リテラシー：Xウインドウ，インターネット，プログラミング 第2版／千葉大学情報処理教育研究会編 共著。－昭晃堂，1997 (本館閲覧室3階 548.96/KYA)

#### 栃木 孝惟 (名誉教授)

- 保元物語の形成／栃木孝惟編。－汲古書院，1997 (本館閲覧室4階 913.432/HOU)
- 平治物語の成立／栃木孝惟編。－汲古書院，

1998 (本館閲覧室 4階 913.433/HEI)

- 保元物語・平治物語・承久記／栃木孝惟[ほか]校注. (新日本古典文学大系; 43) - 岩波書店 1992 (本館閲覧室 4階 918/SH64)
- 平家物語の成立／栃木孝惟編. - 千葉大学大学院社会文化科学研究科, 1997 (本館学内出版物コーナー 913.434/HEI)

#### 中野 正孝 (元看護)

- 論文が読める! 早わかり統計学／ジェフリー・R・ノーマン, デビッド・L・スタイナー著; 中野正孝[ほか]訳. - 医学書院エムワイダブリュー, 1999 (本館閲覧室 3階 490.19/RON)

#### 野沢 敏治 (法経)

- 復権する市民社会論：新しいソシエタル・パラダイム／八木紀一郎[ほか]編著 共編著. - 日本評論社, 1998 (本館閲覧室 3階 362.06/FUK)

#### 藤田 幸雄 (教育)

- カラテ解剖学：科学が君を強くする／藤田幸雄著. - 福昌堂, 1994 (本館閲覧室 4階 789.23/KAR)
- 組手上達 7つの秘訣：強くなる空手／藤田幸雄著. - 福昌堂, 1999 (本館閲覧室 4階 789.23/KUM)
- 強くなる空手動きの方程式：スポーツ科学が明かすフットワークの真実／藤田幸雄著. - 福昌堂, 1995 (本館閲覧室 4階 789.23/TSU)

#### 丸山 英気 (法経)

- 物権法入門／丸山英気著. - 有斐閣, 1997 (本館閲覧室 3階 324.2/BUK)

#### 南塚 信吾 (文)

- ハンガリー／ヤーノシュ・サーヴァイ著; 南塚信吾, 秋山晋吾訳. - 白水社, 1999 (本館閲覧室 2階 234.7/HAN)
- ドナウ・ヨーロッパ史／南塚信吾編 (新版世界各国史; 19). - 山川出版社, 1999 (本館閲覧室 2階 234.6/DON)

#### 山口 義夫 (法経)

- 国税当局からみた税務調査のターゲット：実地調査の急所と対策／山口義夫著. - 中央経済社, 1998 (本館閲覧室 3階 336.983/KOK)

#### 若桑 みどり (文)

- 女性の技芸と労働をめぐる性差構造：特に「紡ぐ女・織る女」のイメージとその意味について／若桑みどり編. - 千葉大学大学院社会文化科学研究科, 1998 (本館学内出版物コーナー 701.3/JOS)

#### [亥鼻分館]

#### 杉森 みどり (元看護)

- 看護教育学 第3版／杉森みどり著. - 医学書院, 1999 (亥鼻閲覧室 WY18)

#### 野尻 雅美 (看護)

- 保健学：疫学・保健統計／野尻雅美編著. - 真興交易医書出版部, 1999 (亥鼻閲覧室 WY100)

#### [園芸学部分館]

#### 犬伏 和之 (園)

- 土壌環境分析法／土壌環境分析法編集委員会編 (分担執筆) - 博友社 (園芸閲覧室 613.58/D)

#### 大江 靖雄 (園)

- 持続的土地利用の経済分析：畑作農業の展開と作付行動／大江靖雄著. - 農林統計協会, 1993 (園芸閲覧室 611.7/J)
- 戦略的農業のための意思決定／松原茂昌編著. 分担執筆. - 農林統計協会, 1997 (園芸閲覧室 611.7/S)

#### 白井 彦衛 (元園)

- ガーデンブック：ガーデニング完全ガイド 自分でイングリッシュガーデンを造るために／ジョン・ブルックス著; 日本語版監修白井彦衛. - メイプルプレス, 1998 (園芸閲覧室 629.75/G)

#### 藤井 英二郎 (園)

- 樹木からのメッセージ：樹木の危険度診断／Claus Mattheck, Helge Breloer [著]; 藤井英二郎, 宮越リカ共訳. - 誠文堂新光社, 1998 (園芸閲覧室 653.12/J)

#### 本山 直樹 (園)

- 植物保護の探究：病害・虫害・雑草害研究の立場から／日本農薬学会農薬生物活性研究会編集 分担執筆. - 日本植物防疫協会, 1997 (園芸閲覧室 615.8/S)

(50音順 敬称略)

## 千葉大学附属図書館運営委員会名簿

(平成11年5月1日現在)

附属図書館長	土屋 俊	工 学 部	廣橋 光治・藤田 力
亥鼻分館長	嶋田 裕	園芸学部	油井 正昭・三位 正洋
園芸学部分館長	油井 正昭	医学部附属病院	里村 洋一・田邊 政裕
総合情報処理センター長	島倉 信	大学院社会文化科学研究科	坂本 忠久
文 学 部	若桑みどり・前田 彰一	大学院自然科学研究科	福川 裕一
教育学部	末吉 貫爾・鈴木 宏子	留学生センター	見城 悌治
法経学部	菅原 郁夫・榊原 健一	外国語センター	御子柴道夫
理 学 部	小川  劭・大澤 雅彦	環境リモートセンシング研究センター	本多 嘉明
医 学 部	矢野 明彦・大沼 直躬	真菌医学研究センター	山口 正視
薬 学 部	堀江 利治・高山 廣光	事務局長	杉浦 哲郎
看護学部	舟島なをみ・岩崎 弥生		

非 公 開

## 行 事 日 誌

(平成11年3月～6月)

3月4日	図書館組織・機構特別委員会(第2回) (於：東京大学)	5月21日	書館との懇談会(於：国立国会図書館) 平成11年度「千葉市図書館情報ネット ワーク協議会」総会(於：放送大学)
3月10日	平成10年度第3回附属図書館運営委員会	5月25日	平成11年度国立大学附属図書館事務部 課長会議(於：東京医科歯科大学)
4月16日	平成11年度「千葉市図書館情報ネット ワーク協議会」第1回理事会 (於：センチュリータワー21)	5月27日	平成10年度第4回国立大学図書館協議 会理事会(於：東京大学)
4月28日	第55回関東地区国立大学図書館協議会 総会(於：埼玉大学)	6月22日	第46回国立大学図書館協議会総会 (於：仙台国際センター)
5月11日	国公立大学図書館協力委員会平成10 年度第2回常任幹事会及び国立国会図		

千葉大学附属図書館報

〔図書館の本〕

No. 72 平成11年7月21日発行

発行 千葉大学附属図書館 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

Tel. 043-251-1111(代) Fax. 043-290-2266 URL: <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/>

千葉大学附属図書館報

**図書館の本**

No. 73 1999. 12

写真とエピソードで綴る図書館の50年(2)	1
展示会「千葉大学の50年—21世紀への助走」	4
アダム・スミスコレクションの追加(2)	5
ライブラリートピックス	6
教官寄贈著書	8

千葉大学創立50周年記念特別企画

**写真とエピソードで綴る図書館の50年(2)**

館報編集委員会

前号の続きになりますが、懇談会の後半をお伝えします。当初2時間を予定していましたが、後半になるほど話がはずみ大幅に予定時間をオーバーしてしまいました。今回は前回より時代が少し進み昭和43年附属図書館が新営された前後の話を紹介します。先に今号のエピソードに関わる時代を附属図書館(本館)小史にまとめました。

**[小史]**

昭和25年4月：文理学部構内(千葉市小仲台町)に附属図書館を開設。

昭和38年7月：附属図書館が旧東京大学生産技術研究所施設跡(千葉市弥生町)に移転。

昭和43年4月：附属図書館本館竣工。

昭和44年4月：「指定図書制度」の実施校に指定。

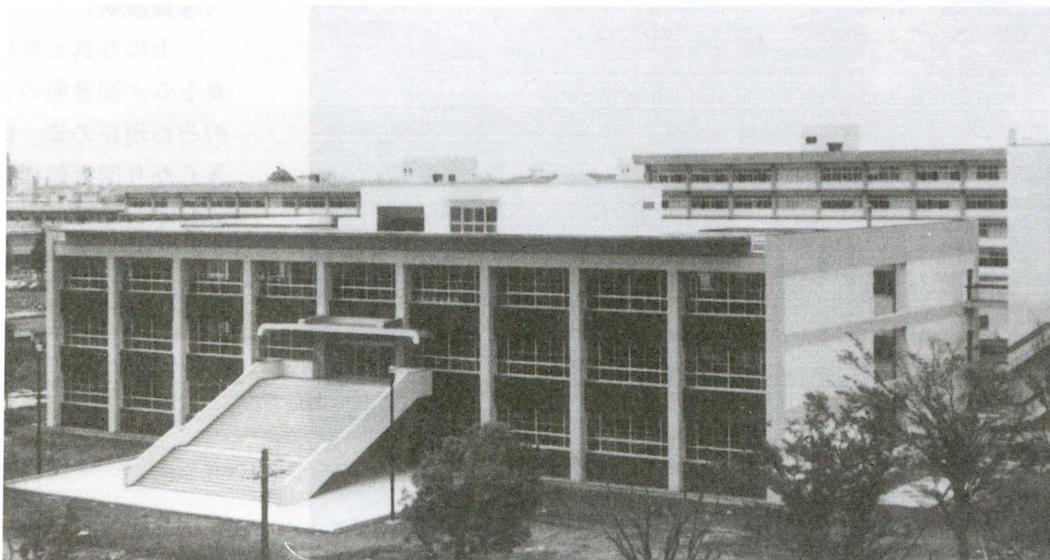
昭和45年4月：「参考調査係」が設置。

昭和48年4月：事務部(1部2課制)が設置。

昭和50年6月：国立大学図書館協議会岸本賞受賞(「図書館で学ぶために」の刊行)

昭和56年2月：新館竣工。(従来の部分を旧館、増築部分を新館と呼ぶこととした。)

昭和63年1月：附属図書館の蔵書が100万冊に達した。

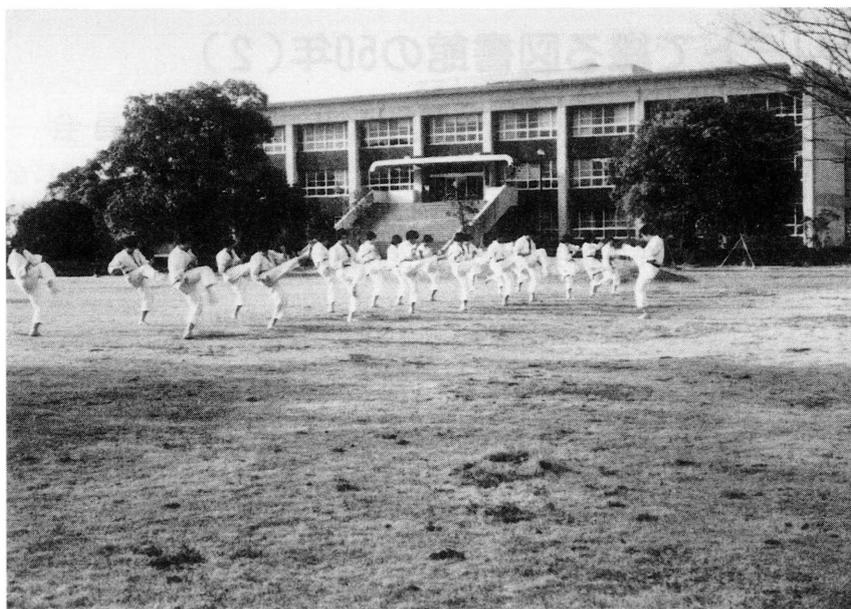


竣工 昭43.4



(写真説明)

昭和45年頃のカウンター風景



(写真説明)

図書館前の広場が空き地のようにならしている。黙々と空手の稽古をする学生たち。

図書館の建物が建ってまもない頃か。



(写真説明)

上の写真と角度が少し異なるが図書館の大階段をのぞむ現在の姿。樹木が大きくなり図書館の全貌をかくしてしまう。

**(写真説明)**

気送管？

今も旧館3階元の参考調査係カウンター後に残る遺物。古い図書館概要には「付帯施設・気送管1式(エアシュータ)」と記されている。管は1階の総務係と印刷センターに通じていた。

3階で受け付けた複写申込書や料金、総務係で交付する領収書、印刷センターからは複写物をカプセルの中に入れ送りあっていた。

\*印刷センターは、図書館(旧館)1階にあり文献複写の他、学部からの依頼を受け教材のオフセット印刷も行っていた。

**閉架式閲覧**

☆N氏の発言「当時は、一部の辞書、新聞を除いて完全閉架式でした。学生は書庫に入れず、金網越しに読みたい本を見つけるとブザーを押して司書呼びます。それから金網越しに読みたい本の背を奥に押し込むと、中の司書がその本を出してくれる仕組みになっていました。」

新館(現旧館)の建つ前の話ですが蔵書の増えた現在、想像もつきません。少し暗いイメージの金網を連想してしまいましたが、その後、このような閲覧方式を改め開架閲覧方式になりました。

**曝書(ばくしょ)**

☆この言葉も死語でしょうか。Nさん「夏の暑い日には曝書をしました。書架の本を全部出して虫干しします。」

『図書館ハンドブック 第5版』(日本図書館協会)には貴重書対策の一部として「和装本や漢籍は、夏の強い日光に本を開いて数時間さらし乾燥させ同時に殺虫する。」とありますが、すべての図書をどこに並べたものでしょうか、のどかな感じもしてきます。

**図書館の新営と大階段**

☆K氏は図書館の新営に努力されました。K氏「新営の概算要求をした時、文部省では『大学図書館施設計画要項』の検討中で工学部の先生も要項作成のメンバーでした。要項の作成後だったらもう少し大きな図書館になったかもしれない。それはともかく、新営計画では閲覧者第一主義を基

本に、利用者の動線等を考えました。2階に入口を作ろうという発想もそこから生まれたし、どうせなら目立つように大きな外階段にしようということになったんです。新築なった直後は大学図書館関係者がたくさん見学にきましたよ。」

新営されたのは昭和43年でした。その後昭和56年に増築(新館と呼んでいる)されたため、入口も変わり現在の大階段は、南からの陽を受け学生が座って弁当をたべたりお話をしたりの「ひな壇」(誰がつけたか「スペイン階段」)になっています。

**参考調査係の設置**

☆N氏は、新設された参考調査係長でした。「当時は参考図書も少なく仕事といえば雑誌目録(冊子体)の作成でした。」続けてK氏は「当時の運営委員会で共通基本図書の購入計画案を学長宛に提出し評議会で認められ、学内措置により『共通基本図書購入費』として予算化された。これは大きかった。Nさんはそのリスト作りもした。」と話されました。

こうした予算で参考図書の充実を計りながら、二次資料の簡単な説明をくわえた小冊子『図書館で学ぶために』を刊行し学生に配布しました。この小冊子は、昭和50年国立大学図書館協議会岸本賞を受賞しました。

まだ記録していない話は多いのですが、次号では、分館の昔の様子がとてもよくわかる文章を元職員が書いてくれていますのでご紹介します。

## 千葉大学創立50周年記念展示会

### 「千葉大学の50年—21世紀への助走」を開催

平成11年11月1日から11月15日まで本館では、千葉大学の新制大学としての創立50周年を記念して、創立以来の歴史や現状を物語る資料や写真パネルなどを中心とした記念展示会を新館1階ホールで開催しました。

展示会では、大きくケース展示、パネル展示、パソコン展示に分けて展示しました。ケース展示としては、歴史資料（千葉大学設置申請書など）、学内刊行物（本学の歴史資料、自己点検報告書、要覧・案内などの現状を紹介する資料）、学内教員の各種受賞功績関連資料、薬学部の萩庭さく葉標本（絶滅に瀕する薬用植物の標本）、経済の古典資料（本館所蔵の初版本中心の貴重図書—アダム・スミスコレクションなど）を展示しました。

パネル展示としては、本学で収集した学内の建物、行事、キャンパスライフなどの写真74点、沿革、年表、そして、明石教授（教育学部）の資料提供による「学生の生活と意識」があります。今回の展示では、本学の卒業生数名の方たちにも資料（教育学部第1号の卒業証書、文理学部の学生証など）や写真の提供をいただきました。

パソコン展示では、会場に2台のパソコンを設置し、沿革、歴史年表、写真画像、そして学生生活「数で見る千葉大生」を掲載し、図書館のホームページ（<http://www2.ll.chiba-u.ac.jp/~moku/tenjinews.html>）上で閲覧できるようにしました。



（写真説明：「霧箱」設置風景）



（写真説明：展示会風景（11/3））

その他、大学祭期間中のみですが、先進科学教育センターが「霧箱」の装置を使用して、宇宙の放射線が降り注ぐ様子を目に見える形で実験を行い、見学者の興味を惹きました。また、千葉大学の広報用ビデオも期間中会場で見られるようにしました。

本展示会には、本学各部局の方たちの資料収集面や開催に際してのご協力、そして、資料提供には卒業生数名からもご協力が得られましたことを感謝いたします。短い準備期間であり、網羅的といえないまでも、ほぼ満足の行く展示会を開催することができたと思います。

開催期間中には、大学祭も同時開催（11月1日～4日）されており、本学の教職員・学生の他に、多くの一般市民が見学に訪れました。萩庭さく葉標本については、新聞報道もあり、これを目当てに訪れる見学者も大勢いました。それぞれ、展示を通して、本学の歴史を回顧し、現状の姿を認識し、そして未来への展望を抱いていただくことができたと思います。

## 〈資料紹介〉

## アダム・スミスコレクションへの追加(2)

法経学部教授 野 沢 敏 治

今回、文庫に追加する古典はケインズの『雇用、利子および貨幣の一般理論』である。

J. M. Keynes, The General Theory of Employment Interest and Money.

Macmillan and Co., London, 1936

(i). xii. 384, 19

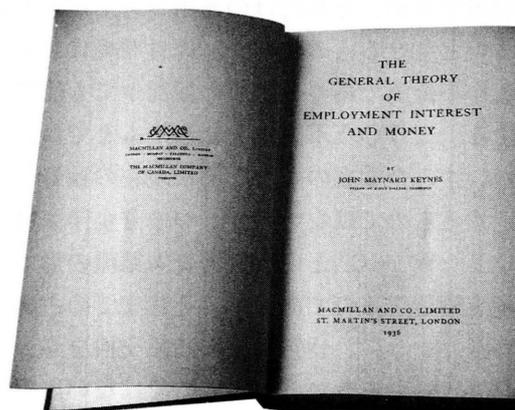
ケインズ経済学はわが国では1950年代から60年代にかけてマルクス経済学と拮抗する一方の雄であったが、70年代に顕著となったスタグフレーションの状況以降においてその終焉と政策の非有効性が言われるようになった。それが、80年代から90年代にかけての金融グローバリズムと規制緩和のもとでバブルの崩壊を経験し、企業経営のリストラに苦しんでいる現在、再びケインズが見直されるような機運となっている。他の経済学の古典と同じく、今ケインズが生きていたら、どうこの不況に答えるであろうかと、想像力がかきたえられる。

ケインズは株式市場と国際経済に対して次のような考えをもっていた。

株式は株式取引所で評価されるが、それは当該企業の収益を予測してなされるよりも、市場の群衆心理にもとずいてなされている。これでは経済はカジノ化してしまい、一国の公共利益に反することにもなる。また、国際経済においては、ある国が貿易黒字を追求することによって他国を犠牲にしてしまえば、無秩序になってしまう。それを防ぐためには、すべての国が自国の事情を考えた利子率のもとで完全雇用を維持する経済政策を共に採用すべきである……。

こういうケインズを知ると、われわれはケインズ政策の直接の有効性云々の議論を越えて、現代資本主義を認識するのに、なおどころか、大いに示唆を与えられる。

『一般理論』は普通、第1次大戦後の不況による失業問題を解決するために、その基礎となる理論を構築したと位置づけられている。ケインズは最初はA. マーシャルの経済理論の忠実な継承者



をもって任じていたのであるが、どうしても師の理論に反逆せざるを得ないような現実にぶつかり、師と自らの双方を乗り越えていく。本書は1933年にその直接の執筆を始め、1936年1月に刊行された。その間、それは何回か草稿の書き直しを経て、また印刷中にあっても何回かの校正のさいに、校正刷りを友人や研究者に回して論戦をしながら、改善を繰り返して、ようやく出版されている。

以下、本書が現代の資本主義を捉えていくうえで重要な視点となるものを幾つかあげてみよう。

ケインズまでの正統的経済学は、経済社会は自分の利己的な満足を極大化することを目的として行動する合理的な経済人によって構成されていると考えていた。だが、現実はそのようなことに、ケインズは注目する。例えば、労働者をとってみれば、労働者は自分の労働力を商品として販売し、その労働力の価格である賃金でもって生活を維持している。その点では労働力は一般の商品と同じであるとしても、それは他の普通の商品とは異なる特殊の質をもった商品である。それは機械の価格と同じように需要の変動に伸縮的に応じてやがて均衡していくような商品ではない。こういう認識を現在のリストラのもとで活路を探すはめになっている日本のサラリーマン—50代になって失職するなんて今まで会社に捧げてきたこの人生はなんであったのかと戸惑う、将来の転職を考えて今から新たな技能の修得の準備をする、家族

と離れてまでも単身赴任することを厭わないように気持ちを整える、会社に捧げてきたこの人生とは何であったのか、等々の一はどうか受けとめるであろうか。

次の視点として、企業家は事業に投資して労働者を雇用するが、それだけの雇用コストがかかってもよいとさせるものは何か。経営環境は将来どうなるか不確定であり、生産の期間中でも価格は変動する。こういう不安定な状態のもとでは、将来にたいする企業家の期待こそが現在の投資行動を決定するものではないのか。つまり企業家は  $G-W \cdot P \cdot W' - G'$  という貨幣資本循環の形での再生産を期待するのであって、それまでの古典派理論が説くように、貨幣は単に商品交換を媒介する手段 ( $W-G-W$ ) というものではない。貨幣は生産にたいして中立的で何ら影響を与えないというものではない。こういうケインズの認識では、古典派のケネーやスミスが再生産論で明らかにしたように、特定の使用価値の特定量の回収や社会的分業下での産業部門間の補填関係の様子が出てこない点で不満はあるが、それでも貨幣には普通の商品とは異なる独特の性格があるのではないかという以下の指摘につながっていくうえで、それは重要である。

古典派は人々の所得はその全部が企業家の供給する消費財の購入に支出されると考えた。この理論は社会の消費財の価値はすべて実現されると想定しているのだが、それは現実的なものであろうか。ケインズはそんな価値実現の保証はないと考える。所得の一部は流通に出ることなく、保蔵されるからである。貨幣には普通の商品にはない特殊な働きがあって、それは資産（ストック）となって価値を保有することができるのである。だから社会の中で貨幣量が増えても、それだけでもそれが消費財にたいする有効需要となることはない。それゆえ、古典派の大前提であった「供給が自らの需要を創造する」という命題は成立しないことになる。

以上、ケインズの思考のほんの一例をあげておいたが、彼の『一般理論』は今日の日本資本主義と世界経済を現実的に捉えていくうえで貴重な方法と考え方をわれわれに与えてくれる。その点で本書は現代の古典である。

アダム・スミスコレクションへの追加(1)

(J.S.ミル『経済学原理』第3版、第5版) は、no.71(1999.3) p.7に掲載



## 〈ライブラリー・トピックス〉

### 【貸出図書返却先の自由化】

9月から千葉大学の本館・分館で借りた図書はどの図書館でも返却・貸出更新ができるようになりました。西千葉本館で借りた図書を、亥鼻分館、園芸学部分館で返却することも、分館で借りた図書を、本館へ返却することも可能です。各館にまたがる図書を利用される方には大変便利になりました。どうぞご利用下さい。

### 【西千葉本館、土曜日・日曜日の 図書の貸出・返却サービスを開始】

9月から、土曜日・日曜日(12:30~17:45)貸出・返却を行っています。このほか、カウンターでは問い合わせ・予約申し込みも受け付けております。

### 【亥鼻分館の貸出期間延長、 院生等への長期貸出適用】

8月から亥鼻分館の図書貸出期間を2週間までに延長しました。ただし、更新をした後の貸出期間は、従来どおり手続きをした日から1週間までです。また、夏休み、冬休み等の長期貸出は学部学生、附属学校生に限らず、大学院生、研究生等も受けられるようになりました。

### 【園芸分館雑誌移動のお知らせ】

園芸分館1階の雑誌について、書架スペースが狭くなってきたため、1970年から74年までの5年分を書庫に移動しました。1974年以前の雑誌の所在は書庫に、75年以降のものは1階閲覧室になります。

## <ライブラリー・トピックス>

### 【朝日新聞 DNA 全文検索、 学内サービス開始】

10月から朝日新聞DNA全文検索 (<http://www2.ll.chiba-u.ac.jp/~san/online/asahi.html>) が、学内LANに接続されたPCから検索できるようになりました。

朝日新聞DNA全文検索は、インターネットで1985年から当日の朝刊まで一度に検索できる便利なシステムです。図書館ホームページの [Web検索]-[朝日新聞] よりアクセスできます。原則として24時間利用可能、同時にアクセスできるユーザーは1名です。

### 【ScienceDirect サービス開始】

ScienceDirect は、Elsevier Science が提供する電子ジャーナルサービスです。

千葉大学では Elsevier Science 発行の学術雑誌を229タイトル購読しており、これらについて論文記事の全文を見ることができます。

詳しくは、

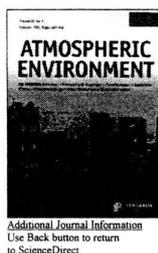
<http://www2.ll.chiba-u.ac.jp/~joho/webinfo/19991020.sd21.html> を御覧下さい。

Home Journals Search Alerts Account Help SCIENCE @ DIRECT

journals

Atmospheric Environment  
Copyright © 1999 Elsevier Science Ltd. All rights reserved.

- Recent Issues - Volume 34
- Volume 34, Issue 2, Pages 171-345 (January 2000)
- Volume 34, Issue 1, Pages 1-168 (January 2000)
- Volume 33
- Volume 32
- Volume 31
- Volume 30



Home Journals Search Alerts Account Help SCIENCE @ DIRECT

Send feedback to ScienceDirect  
Software and compilation © 1999 ScienceDirect. All rights reserved.  
ScienceDirect® is an Elsevier Science B.V. registered trademark.

### 【附属図書館将来構想検討委員会を設置】

今年度の第2回運営委員会で、「将来構想検討委員会」が設置されました。

今年度、委員会では図書館の増改築（案）を検討の上、2月の運営委員会に最終報告を行います。現在、ワーキンググループで内外の先進的図書館の調査や分析を行いつつ、21世紀の千葉大学附属図書館像の基本構想をとりまとめております。

### 【附属図書館講演会の開催】

11月18日(木)附属図書館ライブラリーホールにおいて、図書館情報大学永田治樹教授をお招きして「サービスのマーケティング」をテーマに附属図書館講演会を千葉市図書館情報ネットワーク協議会と共同で開催しました。

講演では、図書館におけるサービスのマーケティングについて解説し、図書館活動のあり方とサービスの可能性について話されました。

当日は、千葉県大学図書館協議会、ならびに千葉市図書館情報ネットワーク協議会加盟館からも50人を越える参加者があり、図書館サービスのマーケティングについて活発なディスカッションが行われました。

### 【図書館資料選定委員会を設置】

千葉大学の教育研究に必要な資料について、全学的な観点から選書を行い、図書館に当然備えなければならない資料の体系的な整備・充実を図るため平成11年7月に「図書館資料選定委員会」が設置されました。

昨年度までの図書館配架資料の選定は、予算項目毎に選定委員会等が設けられており、総合的な観点からの選定ができないきらいがあったのですが、選定体制を一元化することによってより一層体系的・総合的な選定ができることとなります。

この委員会については、図書館ホームページの [図書館情報]-[資料選定委員会] で見ることができます。

## 教員からの寄贈著書（平成11年6月～11年10月配架分）

次の方々から著書を御寄贈いただきました。ありがとうございました。

### [本館]

#### 石原 英樹（社会文化科学研究科）

- ・偶然を飼いならす：統計学と第二次科学革命／イアン・ハッキング著；石原英樹，重田園江訳共訳．一木鐸社，1999  
（本館閲覧室3階 350.1/GUU）

#### 稲葉 秀明（教育）

- ・携帯電話でなぜ話せるのか：科学の眼で見る日常の疑問／稲葉秀明著．一丸善，1999  
（本館閲覧室3階 404/KEI）

#### 久保田 正人（外国語センター）

- ・言語聴覚士指定講習会テキスト／医療研修推進財団監修 分担執筆．一医歯薬出版，1998  
（本館閲覧室3階大型 498.14/GEN）

#### 工藤 秀明（法経）

- ・原・経済学批判と自然主義：経済学史と自然認識／工藤秀明著（千葉大学経済研究叢書；1）．一千葉大学法経学部経済学科，1997  
（本館学内出版物コーナー 331.2/GEN）

#### 古宮 照雄（教育）

- ・シェイクスピアの言語芸術／古宮照雄著．一古宮照雄，[19--]（本館閲覧室4階 930.278/SHA）

#### 篠山 浩文（自然科学研究科）

- ・ガイドブック大学授業の改善／伊藤秀子，大塚雄作編 分担執筆．一有斐閣，1999  
（本館閲覧室3階 377.15/GAI）

#### 清水 文七（名誉教授）

- ・Vero cells : origin, properties and biomedical applications / edited by Bunsiti Simizu, Toyozo Terasima. - Department of Microbiology, School of Medicine, Chiba University, c1988  
（本館閲覧室3階 491.7/VER）

#### 菅原 憲二（文）

- ・歴史研究 1：前近代／部落問題研究所編

分担執筆．一部落問題研究所出版部，1998  
（戦後部落問題論集；第4巻）

（本館閲覧室3階 361.86/SEN）

- ・愛媛県宇和島市三浦田中家文書目録；第2集／田中家文書調査会編 監修：菅原憲二．一田中家史料保存会，1999  
（本館参考書庫 218.3/EHI）

#### 竹内 延夫（環境リモートセンシング研究センター）

- ・環境計測の最先端／小泉英明編 分担執筆．一三田出版会，1998  
（本館閲覧室3階 519.15/KAN）

#### 橘 幸信（法経）

- ・知っておきたいNPO法：市民が行う自由な社会貢献活動の発展を目指して／橘幸信著，一大蔵省印刷局，1999（本館書庫 335.8/SHI）
- ・総合介護条例のつくり方／橘幸信，堀越栄子，市民法制局準備会編著 共編著．一ぎょうせい，1999（本館閲覧室3階 369.12/SOU）

#### 土屋 俊（文）

- ・応用倫理学の現状：情報倫理の位置付けを目指して／日本学術振興会 [ほか] 編 分担編集．一千葉大学，1999  
（本館学内出版物コーナー 150/OUY）
- ・情報倫理学研究資料集；1／水谷雅彦（編集責任）分担執筆．一「情報倫理の構築」プロジェクト室，1999（本館閲覧室2階 002.7/JOH）

#### 栃木 孝惟（名誉教授）

- ・続・平家物語の成立／栃木孝惟編（千葉大学大学院社会文化科学研究科プロジェクト報告）  
一千葉大学大学院社会文化科学研究科，1999  
（本館学内出版物コーナー 913.434/HEI）

#### 中島 祥夫（医）

- ・日本医学会総会百年のあゆみ／第25回日本医学会総会記録委員会編 編集委員．一第25回日本医学会総会，1999（本館書庫 490.06/NIH）

**中原 秀登 (法経)**

- 企業の国際開発戦略／中原秀登著 (千葉大学経済研究叢書；2). - 千葉大学法経学部経済学科, 1998  
(本館学内出版物コーナー 336.17/KIG)

**半田 吉信 (法経)**

- 売買契約における危険負担の研究／半田吉信著. - 信山社, 1999  
(本館閲覧室 3階 324.52/BAI)
- 物権法／山口純夫編 分担執筆. - 青林書院, 1992 (本館閲覧室 3階 324.2/BUK)

**藤田 力 (工)**

- 有機工業化学：そのエッセンス／亀岡弘, 井上誠一編 分担執筆. - 裳華房, 1999  
(本館閲覧室 3階 570/YUK)

**星野 英一 (元法経)**

- 民法論集 第9巻／星野英一著. - 有斐閣, 1999 (本館閲覧室 3階 324/H92)

**三浦 義彰 (名誉教授)**

- 食の科学：飽食時代の栄養学あれこれ講座／橋本洋子, 三浦義彰著 共著. - 羊土社, 1999  
(本館閲覧室 3階 498.5/SHO)

**水谷 武司 (理)**

- 物理地形学概説／水谷武司著. - 大明堂, 1999 (本館閲覧室 3階 454/BUT)

**水之江 有一 (文)**

- アイルランド：緑の国土と文学／水之江有一著. - 研究社出版, 1994  
(本館閲覧室 2階 233.8/MI96)
- 現代アイルランド・イギリス詩学：Ego dominus tuus／水之江有一著. - 多賀出版, 1997  
(本館閲覧室 4階 931/GEN)
- 多言語文化のディスクール：民衆文化と社会と芸術／水之江有一編. - 多賀出版, 1999  
(本館閲覧室 4階, 書庫 704/TAG)

**[ 亥鼻分館 ]****伊藤 晴夫 (医)**

- 前立腺癌のすべて：基礎から実地診療まで／伊藤晴夫編集 - メジカルビュー社, 1999  
(亥鼻閲覧室 WJ752)

**木下 安弘 (名誉教授)**

- 循環器疾患マニュアル／J. S. Alpert, J. M. Rippe著；木下安弘, 春見建一監訳. - 第3版 - メデイカル・サイエンス・インターナショナル, 1998 (亥鼻閲覧室 WG141)

**清水 文七 (名誉教授)**

- Vero cells: origin, properties and biomedical applications / ed, by Bunsiti Simizu, Toyozo Terasima. - Dept. of Microbiology, School of Medicine, Chiba University, 1998  
(亥鼻閲覧室 QW4)

**舟島 なをみ (看護)**

- 質的研究への挑戦／舟島なをみ著 - 医学書院, 1999 (亥鼻閲覧室 WY20.5)
- 看護のための人間発達学／舟島なをみ著 - 第2版 - 医学書院, 1999  
(亥鼻閲覧室 WS103)

**三浦 義彰 (名誉教授)**

- 食の科学：飽食時代の栄養学あれこれ講座／橋本洋子, 三浦義彰著 - 羊土社, 1999  
(亥鼻閲覧室 QU145)

**守屋 秀繁 (医)**

- TEXT 整形外科学／守屋秀繁, 新名正由編集 - 南山堂, 1996 (亥鼻閲覧室 WE168)

**山浦 晶 (医)**

- グリオーマ／生塩之敬, 山浦晶編 - 三輪書店, 1997 (亥鼻閲覧室 WL368)
- 血管性病変／生塩之敬, 山浦晶編集 - 三輪書店, 1998 (亥鼻閲覧室 WL368)
- 間脳下垂体の腫瘍性病変／生塩之敬, 山浦晶編集 - 三輪書店, 1998 (亥鼻閲覧室 WL368)
- 脳血管の再建／生塩之敬, 山浦晶, 小川彰編 - 三輪書店, 1999 (亥鼻閲覧室 WL368)

[園芸学部分館]

犬伏 和之 (園)

- 環境問題と微生物／日本土壤微生物学会編，分担執筆．－博友社，1999(新・土の微生物 4) (園芸閲覧室 613.56/S)

斎藤 修 (自然科学研究科)

- 新食糧法下における米の加工・流通問題／日本フードシステム学会編;斎藤修編集担当．－農林統計協会，1999.(フードシステム研究シリーズ No.4) (園芸閲覧室 611.33/S)
- フードシステムの革新と企業行動／斎藤修著．－農林統計協会，1999 (園芸閲覧室 611.4/F)
- 産地間競争とマーケティング論：野菜産地の行動と戦略／斎藤修著．－日本経済評論社，1986 (園芸閲覧室 621.4/S)

中川 弘毅 (園)

- タンパク質の科学／鈴木敦士，渡部終五，中川弘毅編．－朝倉書店，1998 (食品成分シリーズ) (園芸閲覧室 498.55/T)

藤井英二郎 (園)

- 創園：日本の庭世界の庭／創園企画・編集．分担執筆．－ミサワホーム総合研究所，1998 (園芸閲覧室 629.2/S)
- ランドスケーププランツ：景観設計植物／浅野二郎〔ほか〕編著．分担執筆．－ワールドグリーン出版，1999 (園芸閲覧室 629.7/R)

三位 正洋 (園)

- 夢の植物をつくる／三位正洋著．－東京：裳華房，1991 (ポピュラーサイエンス) (園芸閲覧室 615.21/Y)

百原 新 (園)

- 温暖化に追われる生き物たち：生物多様性からの視点／堂本暁子，岩槻邦男編．分担執筆．－築地書館，1997 (園芸閲覧室 519.8/O)

(50音順 敬称略)

行事日誌 (平成11年7月～11月)

7月1日	平成11年度第1回亥鼻分館自己点検・評価委員会	9月10日	平成11年度第3回附属図書館運営委員会
7月7日	平成11年度第2回附属図書館運営委員会、附属図書館自己点検・評価委員会	10月15日	千葉市図書館情報ネットワーク協議会理事会 (於：千葉センシティタワー)
7月9日	国公立大学図書館協力委員会常任幹事会 (於：京都大学)	10月22日	国公立大学図書館協力委員会常任幹事会、国公立大学図書館協力委員会 (於：慶応大学)
7月16日	第45回千葉県大学図書館協議会 (於：東京歯科大学)	10月26日	国立大学図書館協議会図書館電子化システム特別委員会 (於：東京大学)
7月28日	平成11年度第2回亥鼻分館運営委員会	11月18日	附属図書館講演会
8月30日	図書館情報サービスにおける国際協力活動に関するワークショップ (於：学術情報センターセミナーハウス)	11月26日	国立大学図書館協議会理事会 (於：名古屋大学)

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No. 74 2000. 2

写真とエピソードで綴る図書館の50年(3)	1
ガイダンス実施報告	5
アメリカ東海岸の大学図書館	6
図書館学受講生との懇談会	8
ライブラリートピックス	8
全国国立大学大型コレクション案内	9
教員からの寄贈著書	9
行事日誌	10

千葉大学創立50周年記念特別企画

## 写真とエピソードで綴る図書館の50年(3)

館報編集委員会

前回までのエピソードや写真は本館を中心としたものでした。50年の時の流れは分館の統廃合の歴史でもありました。今回は分館のことを紹介します。元亥鼻分館の職員と現在園芸学部分館で活躍している職員の新旧図書館員が同じ紙面でそれぞれの分館について語ります。新旧面識はなくとも一つの職務というタスキをつないできた感をつよくします。

(「過ぎし日を顧みて」は、『医学図書館』35巻2号(1988)より許可を得て転載させていただきました)

### 過ぎし日を顧みて

前千葉大学附属図書館亥鼻分館 半田光子

私が千葉医科大学附属図書館に就職したのは、昭和18年9月でした。この3月に退職いたしますが、早いもので、あれから44年以上にもなろうとしています。

当時の図書館は、昭和2年に現在の亥鼻キャンパスの附属病院の場所に建てられた、木造二階建ての大学本館の中にありました。その建物の一階には事務部、二階には学長室、会議室がありました。図書館は二階に、事務室を真中にしてその両側に閲覧室と書庫があるという配置になっていました。

職員は初代司書北村清氏他5名でした。北村司書は戦前の医科大学附属図書館協議会(日本医学図書館協会の前身)で主要メンバーとして活躍され、第3回、第14回総会では、当番館を務めました。

その他、附属病院には分館があり、専任職員が一名いて、臨床系の教官にサービスを行っていました。

私の仕事は閲覧業務と、新着雑誌の展示、及び回覧雑誌業務等でした。閲覧業務といっても今のやり方と全く異なっています。当時の閲覧室では本はすべて金網の中に保管されていました。利用者は読みたい本があると、ベルを押して事務室にいる職員を呼び(職員は常時閲覧室につめていたわけではありませんでした)、金網ごしに本の背を押します。職員はその本を中から取ってきて利用者に渡し、閲覧の場合は閲覧票に、借り出す場合は帯出票に記入してもらいます。雑誌は書庫の中にあり、請求されると職員が取ってくるという出納式でした。

回覧雑誌業務とは、教授達に雑誌を回覧するサ

ービスのことです。2週間に1回程度開かれる教授会に新着雑誌をブックトラックに展示して、教授達に回覧を希望する雑誌を指定（雑誌の表紙につけられた紙に名前を書く）してもらいます。教授会の後その雑誌を希望する教授の所へ持って行きます。その教授が読み終ると取りに行き、また別の希望する教授へ回覧します。

このサービスはその後コンテンツのリスト作成（タイプによる）に変わり、現在ではCurrent Contentsの購入、及びコンテンツシートサービスに変わっています。

また、複写業務も現在のやり方とは違うのでご紹介します。まず、複写の依頼を受けると、キャノンのカメラで該当ページを撮影して、暗室で現像します。現像したマイクロフィルムは書庫に干して、翌日コマを確認して、郵便局から依頼館へ送っていました。

これはその後、湿式の複写機に変わり、現在では乾式の機器となっています。

戦争中なので、図書館業務の他にこんなこともありました。食料難を少しでも助けるために旧解剖教室の南側の空地約500㎡を職員が家族と一緒に開墾し、甘薯等を植え付け、交代で草取りをしました。そして、収穫した甘薯をふかして、三時のおやつにいただいたものです。

昭和19年頃より、国情は戦局いよいよ緊迫し、千葉市にも米機の空襲があり緊張の日々でありました。空襲時にも図書館は開館していましたが、空襲警報が発令されると、連絡道路（本館から病院へつながる道路で、春には桜並木が美しい）の脇の横穴式の防空壕に学生達と一緒に避難しました。しばらくして、警報が解除されると、ほっとして図書館に戻って仕事を続けたものです。

この頃長野県下伊那郡天下条村へ図書の一部を疎開させたことが記憶に残っています。

また、この年の10月9日に上司北村司書が職務中急逝され、非常に悲しい思いをしました。

昭和20年7月7日未明に、千葉市は大空襲を受け、本学も基礎医学教室の大部分他かなりの部分を焼失しましたが、幸いにも図書館は焼失を免れました。そのため、図書館で所蔵している資料は無事でしたが、教室で所蔵している資料の一部が焼失し、当館蔵書も無傷というわけではありませ

んでした。8月には終戦を迎えましたが、空虚な日々でした。

戦後は進駐軍とともにジャズが流行し、学内でもダンス熱が高まりました。毎週土曜の午後に大学会館でレッスンを受け、月に1度は本館講堂でパーティが催されました。コンペも開催され、私はしばしば1、2等となり、賞金をいただきました。また、東京のホールでもパーティが催され、新橋のフロリダ、銀座松屋地下のオアシス等に遠征しては楽しんでいました。

昭和24年4月には、千葉大学が発足し、それとともに千葉医科大学は千葉大学医学部となり、図書館も医学部分館と改称されました。年々増える蔵書を収容するため、第二書庫を焼け残った細菌学教室の書庫に設けました。33年には、閲覧室の電灯を蛍光灯に換えましたが、その明るさが忘れられません。

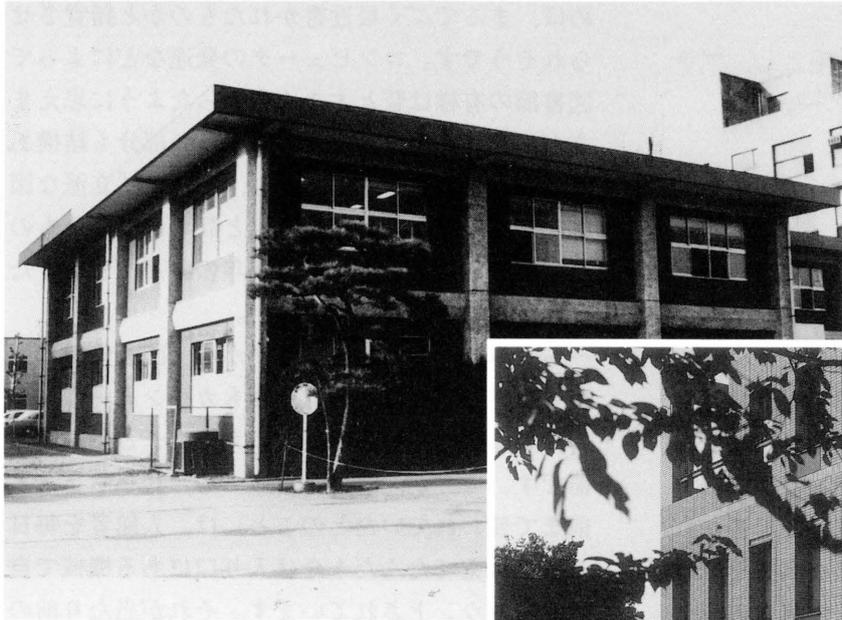
昭和43年から附属病院の建設計画がスタートし、新病院が本館のある地区に建築されることになりました。それにより医学部分館も新営されることになり、45年10月新営工事開始、46年3月竣工、7月19日に落成、開館の運びとなりました。しかし、書庫部分が未完成のため、その後数年の間不自由を忍ばねばならない状態でした。

53年4月には、生物医学情報図書館構想のもとに、医学部、附属病院の他に看護学部、生物活性研究所（現在の真核微生物研究センター）を加えて4部局を対象とした複合分館として、亥鼻分館がスタートし、私は総務係に配置換えになりました。

医科大学就職以来40数年が夢のように過ぎたように思えます。この間多くの良き上司、同僚に恵まれ、暖かいご指導や友情をたまわり、無事今日まで過ごすことができましたことに対し感謝しております。

また、協会の皆様には、長い間お世話になりまして、誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。





〔旧亥鼻分館（昭和55年頃）〕



〔現亥鼻分館（平成8年竣工）〕

## 園芸学部分館の歴史

園芸学部分館 高野厚子

園芸学部は、その前身を辿ると、明治34(1901)年に設立された千葉縣立千葉中学松戸分校にまで遡ることができます。その後昭和4(1929)年、千葉県から文部省へ移管し、千葉高等園芸学校と改称しました。昭和19(1944)年に千葉農業専門学校と改称し、「園芸」の名称を一時失いましたが、その5年後に千葉大学園芸学部へ包摂されることとなりました。当時食料増産が強く叫ばれていたときであり、農学部とすべきかどうか議論もあったといいます。国立大学の学部としては唯一の「園芸」の名前は、こういった歴史を持っていて、それだけに多くの人々の思い入れのこもった名前なのです。

園芸学部分館は、千葉大学園芸学部となる前からの古い資料を引き継いでいます。高等園芸学校時代の卒業論文（和綴の古めかしいもの）は書庫の片隅にひっそりと眠っているのですが、なぜか(?)時々外部の人がこれを目指して来館されます。

園芸学部分館の変遷を簡単に年表で示すと…

昭和24(1949)年

千葉大学園芸学部発足

千葉農業専門学校時代からの図書館は、事務室は図書館長の研究室と兼用で、閲覧室や書庫は小部屋があてられ、図書館職員も事務員1名であった  
写真①

昭和26(1951)年

木造平屋の図書館を新設。弓道場を改築したものの。場所は現在の研究棟の西端。

150㎡ほどの、鬼瓦が印象的な建物であった。

司書の資格を持つ専門職員が新たに採用された。

昭和38(1963)年

新館竣工(RC444㎡)。現在の建物の旧館部分にあたる。一部が学生ホールとなっていた。

写真②

昭和48(1973)年

改装。学生ホールだった部分を閲覧室とし、ブラウジングコーナーを新設。

昭和58(1983)年

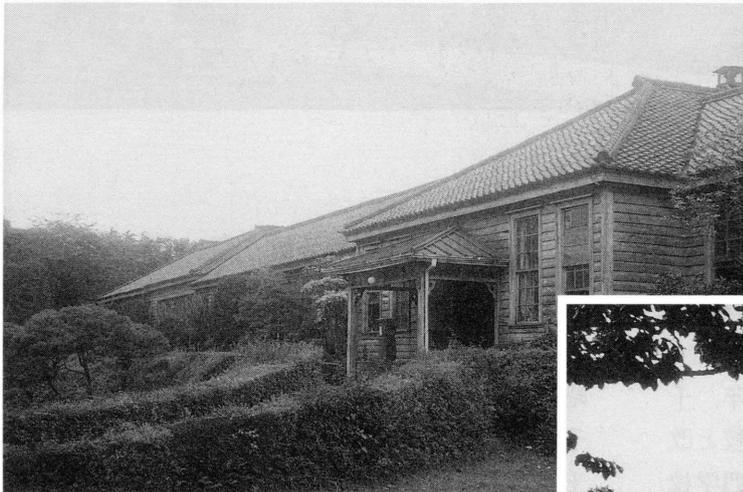
増築・改修。現在の姿へ。

増築部分は560㎡で、旧館部分とあわせて1,004㎡となった。

昭和58(1983)年の増築・改修の翌年1月発行の『図書館の本』には、巻頭に園芸学部分館長であった羽生寿郎先生の「園芸学部分館雑感」が掲載されていました。今からちょうど16年前に書かれたこの文章の中でも、外国雑誌が年々高騰を続けて予算を圧迫していることや、国家公務員の定員削減による職員の負担増と、その対策としての機械化の必要性が述べられていて、その部分だけ読

めば、まるでごく最近書かれたものかと錯覚させられそうです。コンピュータの発達などによって図書館の有様は昔と大きく変わったように思えますが、実はあんまり変わっていない部分も結構あるのかもしれません。しかし、ここで「立派な図書館」「豪華な木製閲覧机」と評されているもの（園芸分館のこと！）は、16年の年月でややくたびれてしまったようですが…。

ちなみに、わたしにささやかな「園芸分館の歴史」を感じさせたものは、今もカウンターの抽斗の片隅に眠っている手動式のカチカチとやる計数器です。そうか、昔（と言っても、10年ちょっと前まで使われていたとのこと）は、入館者を毎日これで数えてたんだ！今は入り口にある機械で自動的にカウントされています。それが当たり前のようになっていたけれど、そう考えると便利になったものですね。



写真①

千葉農専本館だった建物。この建物の中央あたりの小部屋が図書館になっていた。

写真②

昭和38年竣工。改装や増築を経て、現在も使われている建物である。



## ●●● 特別企画を終わるにあたって ●●●

平成11年度（1999年）は千葉大学にとって創立50周年という節目の年でした。この機をとらえ3回に渡って図書館の50年を写真とエピソードで綴ってみました。元職員の協力がなくてはできません。最後になりましたが懇談会に出席された久保田誠二、岩沢明、中垣三郎、中山いほ、阿部和子の各氏と分館の記事の転載を許可して下さった半田光子氏には記して感謝いたします。

## ガイダンス実施報告 (1999.10-12)

本館では10-12月にかけて下記のガイダンスを実施し、約150名の参加者がありました。

- レポート・論文・プレゼンテーションを作成する (10/13, 12/14)
- OPAC 検索と分類の仕組みを学ぶ (10/15, 10/25, 11/11, 11/25, 12/7)
- てってーてきに本を探す (10/21)
- てってーてきに調べる (10/29)
- 新聞記事を探す (11/9)
- 国内の雑誌論文を探す (11/17)
- 海外の雑誌論文を探す (人文社会系) (11/26)
- 海外の雑誌論文を探す (自然科学系) (12/2)
- インターネットで雑誌を利用する (12/10)

今期はガイダンスの目的をより明確にし、利用者の「知りたいこと」にアプローチしやすいようにメニューを設定しました。また、前期(4-7月)のガイダンスはライブラリーホールで実施しましたが、デモを見た後に実習できるよう、今回はCD-ROMコーナー側にプロジェクターとスクリーンを設置して行いました。参加者は後半ほど人数が増え、「海外の雑誌論文を探す(自然科学系)」や「インターネットで雑誌を利用する」に多く集まっていました。ただ、アンケートの結果や利用者の声からは、「実習のできる環境が欲しい」、「決められた日時に参加できない」という意見があり、1-3月は、実施日や人数を固定せず、参加希望者の要望を取り入れて実施します。

授業として参加された文学部、教育学部の皆さんにはアンケートをお願いしました。以下にご意見の一部を紹介させていただきます。ご協力ありがとうございました。

- パソコン1台で世界中のあらゆる情報が引き出せるということを改めて実感することができました。この情報の引き出し方をいろいろ教えて頂けた点が非常に役に立ちました。
- レポートや論文の作り方はずっと知りたかったので大変役に立ちました。今はまだ国外の雑誌や本を調べる機会は少ないのですが、調べる方法が多すぎて逆にどうしたらよいのか戸惑いました。
- Power Point を使いながらの説明が大変わかりやすかった。プリントなども見やすくとても良かった。
- 講師がやるのを見るだけでなく一人一人試してみたい。
- 役に立ったかどうかは、これからの自分の努力次第だと思います。
- 難しいと思っていましたが、想像以上に簡単に使えることがわかりました。食わず嫌いだったと思います。
- 図書館のコンピュータに「OPAC」とあって何のことかわからなかったが、OPAC検索について知ることができた。
- データベース検索で国内だけでなく海外雑誌論文のPsycLITやERICも有効に利用しようと思いました。
- 「大宅壮一文庫」がとても面白かった。
- 今までYahooやgooなどを使うとき、気まぐれで選んで使っていたが、今日、違いや絞り込みの仕方を学んだので生かしていきたい。
- Power Point は名前は聞いたことがあったが実際に見たのは初めてだった。ソフトを持っていないし、今はまだ使う機会がないが将来使ってみたい。
- 図書館が最近変わったな!?とうすうすと感じてはいたのですが、その活用法が全くわからなかったためこうした機会を持って本当に良かったです。
- もっと図書館をうまく利用できるように今回のような企画や宣伝などをしていただけると良いです。

## アメリカ東海岸の大学図書館

工学部デザイン工学科助教授 上野 武

私は、日頃キャンパス計画推進室（本部棟5階にあります）で大学全体の施設計画の見直しを行っています。そんな関係で、附属図書館の将来構想検討委員会にも参加することになり、昨年末、アメリカ東海岸の名門、コロンビア大学、コーネル大学、ハーバード大学の図書館を訪問する機会を得ました。どの図書館も狭隘化を解消するために、最近、改修・増築を行ったばかりで、千葉大附属図書館の将来構想を考えていく上で大変参考になるものでした。各図書館の詳しい説明はまた別の機会に譲るとして、本稿では、アメリカの大学における図書館に対する考え方を紹介します。

### ・大学のシンボルとしての図書館

今回訪問した大学は、どれも歴史と伝統のある大学です。どのキャンパスにも共通して、緑豊かな長方形のオープンスペース〈Quadrangle：クワドラングル（以下クワッド）〉が点在しています。大学の建物はそれを取り囲む形で配置されています。一番最初にできたクワッドが大学の中心であることが多く、図書館は必ずそれに面して建てられていて、教育と研究の場である大学の「知の象徴」として位置づけられています。（写真-1）大学の規模が大きくなるにつれて、学部や大学院にも専門図書館が増えていくのですが、最初にできた図書館は現在でも中央図書館的な役割を担っています。そこは、専門課程に進む前の学部学生の学習の場として、とても大切に考えられています。



【写真-1 コロンビア大学バトラー・ライブラリー】

### ・個人学習環境の充実と、書籍保存スペースの確保

閲覧スペースの豊かさはうらやましい限りです。閲覧室は、もともと天井が高く参考図書などの本に取り囲まれた静謐な空間でした。ただ、最近の電子化に対応するため、その場で自由にパソコンを使ってインターネットに接続できる環境を作り出す必要がありました。歴史ある空間のイメージを損なうことなく、家具と照明に配慮して、さりげなくネットワーク用の配線が用意されています。（写真-2）

また、検索用端末の他にE-mail専用の端末機が置かれ、すべての学生が自由にメールによる情報が得られるようにしてあります。電子化への対応と並んで、大学図書館が解決して行かなくてはならない問題に書籍スペースの確保



【写真-2 バトラー・ライブラリーの閲覧室】

があります。研究の場である大学図書館では書籍の数は毎年大変な勢いで増えていき、保存スペースの確保が重要な課題なのです。コーネル大学では巨大な別館の倉庫を造り、フォークリフトで出し入れするタイプの書庫が完成していました。完全に自動化した書庫も実現可能ですが、コストの面からみて、この方法が現時点での最良の解決策だと判断したということです。(写真-3)

### ・環境保全と改修のありかた

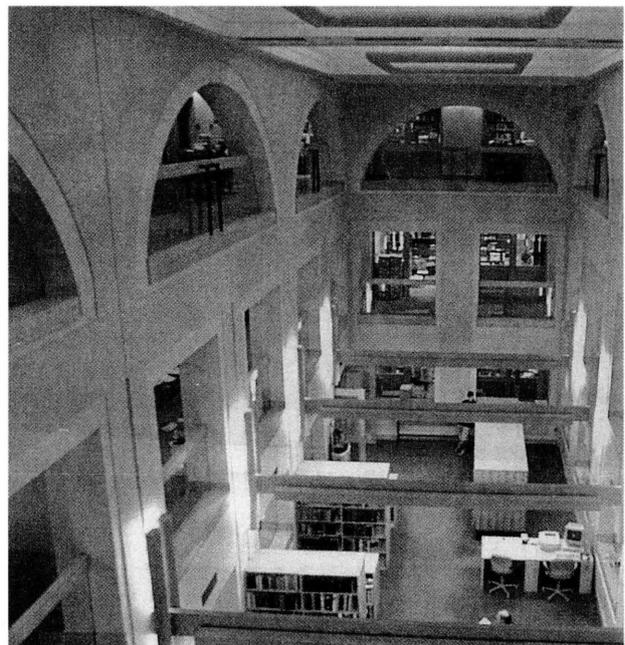
電子化や蔵書数増加に対応するためにはどうしても新たなスペースが必要になってきます。しかし、歴史あるキャンパス空間の中に、新たに建物を造っていくのにはどの大学も大変苦労しています。キャンパスのイメージをできるだけ損なわないように最大限の努力が払われています。今回の訪問で強く感じたのは、建物以上に、緑豊かなクワッドを大切にしていることでした。オープンスペースを大事にすることで、大学の開放性や複合性に対応できるようにしているのです。緑の環境を保全するためであれば、図書館や書庫を地下に設けることもごく普通に受け入れられていました。(写真-4) また、むやみに古いものを壊し新しい建物を建てるのではなく、古い建物を改修して現在のニーズにあったスペースを生み出す工夫を行っています。

### ・千葉大学附属図書館の将来構想

櫛や桜、楠が大きく枝を広げた千葉大正門前の広場は、アメリカの大学と比べても決して見劣りするものではありません。千葉大学のシンボルゾーンとしてこれからも守って行かなくてはならない大切な環境です。そこに面する図書館も、教育と研究のためのシンボルとなる建物にしていく必要があります。附属図書館将来構想検討委員会では、現在の図書館を耐震改修して強度を増し書庫スペースの充実を図るとともに、電子化に対応した閲覧スペースを持った建物を既存図書館の前面に増築する案を検討しています。また、この計画は、当面の問題を解決するだけでなく、次世代にも対応できるフレキシビリティと増築可能性をもったものにしていこうと考えています。



【写真-3 コーネル大学図書館別館の保存書庫】



【写真-4 コーネル大学の地下図書館】

最後に、今回訪問した大学図書館のホームページを記しておきますので、興味のある人は一度のぞいてみてはどうでしょうか。

★コロンビア大学図書館ホームページ

<http://www.columbia.edu/cu/libraries/>

★コーネル大学図書館ホームページ

<http://campusgw.library.cornell.edu/index.html>

★ハーバード大学図書館ホームページ

<http://hul.harvard.edu/>

## 図書館学受講生との懇談会の報告

☆1999年12月17日（金）普遍教育科目「図書館通論」の受講生との懇談会を附属図書館会議室において行いました。参加した学生は、1年生10名、2年生1名、3年生4名の合計15名でした。今回はテーマを「広報について」と設定し、先ず北村情報サービス課長から、図書館による広報の媒体には、①図書館報「図書館の本」、②図書館ホームページ、③教員対象図書館速報「Library Alert」、④掲示板、⑤「附属図書館概要」の5種類あるが、それについて知っているか、また読んでいるか、その配布方法についても質問しました。それに対する回答は以下のようなものでした。

○広報媒体について（知っている）（読む）

①図書館報	2	2
②図書館ホームページ	3	1
③教員対象図書館速報	3	—
④掲示板（図書館）	6	—
掲示板（学部）	—	2
⑤附属図書館概要は、以前に全員に配布。		

○配布方法は？

- 広報媒体を置いてある場所がわかりにくい。カウンター近くに置いた方が良い。

- 土曜、日曜の開館時間を長くしてほしい。
- 図書自動貸出返却装置がうまく動かない。
- 検索の方法が分かりにくい。
- 利用者端末の使い方が分からない。特に Machintosh は触れる機会がない人も多い。
- インターネット端末が故障中のことが多い。
- 配架場所が分かりにくい。「閲覧室」とはどこを指すのか。
- 視聴覚資料も貸出してほしい。

○資料について

- 新しい本を入れてほしい。
- 卒論のための資料が少ない（社会教育分野）。
- カバーをつけてほしい。
- 検索でヒットしたが現物がない場合がある。
- 雑誌の欠号がある。
- もっと映画をみたい。

○施設・設備等について

- サインが分かりにくいし、照明が暗い。

☆広報の認知度が低いことがわかり、広報の方法について考えさせられました。続いて、図書館に対する要望・意見をききました。その中であげられた要望・意見は以下のようなものでした。

○利用について

- ガイダンスの実施にあたっては、あらかじめ日程の希望をとるようにしてもらいたい。
- ガイダンスの時間帯をもっと遅い時間帯にしてほしい。参加したいと思っても授業がある。
- 分からない場合、職員の人に聞きにくい。聞いたけど自分でやってくださいと言われた。

☆これらの要望・意見を今後の図書館の広報や運営の参考にすることで懇談会を終了しました。

### 〈ライブラリー・トピックス〉

#### 【図書カバーは取りません！】

利用者の皆さん、もうお気づきでしょうか昨秋から新刊図書の図書カバーはつけたまま配架しています。

従来図書館配架の図書は、図書カバーをとって配架しておりましたが、きれいなカバーをとってしまうと色彩がなくなり、毎年約8,000冊もの新刊図書を受入れているにもかかわらず古い本が多いという印象を与えていたようです。

そこで一目で新刊とわかるように、また本の保護のためにもカバーをつけたまま配架することにしましたので、どうぞご利用ください。

#### 【開架図書へのバーコードの貼付作業について】

1998年4月に自動貸出返却装置が導入されましたが、バーコードの貼付が一部の図書に限られていたため、この装置を使用できる利用者カード（学生証等）を持っている利用者でも全ての図書を処理することができませんでした。

現在、開架図書について、3月いっぱいの完了を目標として、バーコードを未貼付の図書への貼付作業を行っています。

一部の図書が、作業中のため書架にない場合がありますが、お探しの図書がない場合は受付カウンターまでお申し出下さい。

## 全国国立大学大型コレクション案内 (平成11年度)

ここに紹介するコレクションは、各国立大学が文部省より資料購入費の配分を受けて購入した資料のリストです。これらの資料は購入した大学の利用に限らず、全国の研究者の共同利用に供されることになっております。資料内容、利用等については参考調査係までお問い合わせください。

### 〔人文社会系特別図書〕

静岡大学 欧米比較政治基本史料集成1～7

徳島大学 Galen: Omnia quae extant opera  
11 vols. in 7. 2ed.  
(ガレノス「全集」全7巻)

### 〔自然科学系特別図書〕

旭川医科大学 The history of nursing : pt. 1,  
pt. 2, supplement to pt. 2  
(看護学の歴史)

九州大学 Environment Collection  
(環境問題コレクション)

東京農工大学 Thesis for a Degree. Agriculture,  
General (UMI 学位論文)

東京工業大学 欧米科学史・技術史・科学方法論  
資料集成

### 〔外国図書購入費〕

北海道大学 The Library of prof. James R.  
Gibson Contemporary & historical  
geography of Russia and Russian  
America  
(J. R. ギブソン・コレクション)

東京水産大学 The IDC Microfiche Collection on  
Botany (Phycology and algae)  
(IDC 植物学マイクロフィッシュ  
コレクション)

宮城教育大学 イギリス児童書コレクション

京都大学 Botanical and horticultural  
collection. Part1: Plant taxonomic  
literature collection (植物学・園  
芸学: 文献・標本コレクション)

東京大学 東南アジア経済圏統計資料コレク  
ション

山口大学 Asian Studies (アジア研究資料)

鹿児島大学 Islands and Island Cultures of the  
East and West (世界の島の文化  
に関するコレクション)

## 教員からの寄贈著書 (平成11年11月～12年1月配架分)

次の方々から著書を御寄贈いただきました。ありがとうございました。

### 〔本館〕

岩田 昌征 (法経)

- ユーゴスラヴィア多民族戦争の情報像: 学者の  
冒険/岩田昌征著. - 御茶の水書房, 1999  
(本館閲覧室3階 316.8393/YUG)

宇佐美 寛 (教育)

- 大学の授業/宇佐美寛著. - 丸善, 1999  
(本館閲覧室3階 377.15/DA1)

内間 直仁 (文)

- 琉球方言文法の研究/内間直仁著. - 笠間書  
院, 1984 (本館閲覧室4階 818.99/RJU)

加藤 隆 (文)

- キリスト教の揺籃期: その誕生と成立/エチエ  
ンヌ・トロクメ著; 加藤隆訳. - 新教出版社,  
1998 (本館閲覧室2階 192/KIR)
- 『新約聖書』の誕生/加藤隆著. - 講談社,  
1999 (本館閲覧室2階 193.5/SHI)
- 新約聖書はなぜギリシア語で書かれたか/  
加藤隆著. - 大修館書店, 1999  
(本館閲覧室2階 193.5/SHI)

工藤 一浩 (工)

- 新機能性薄膜/日本材料学会編 分担執筆.  
- 裳華房, 1999 (本館閲覧室3階 549.8/SHI)

**古在 豊樹 (園芸)**

- 閉鎖型苗生産システムの開発と利用：  
食料・環境・エネルギー問題の解決を目指して／  
古在豊樹編著．一養賢堂，1999  
(本館閲覧室 3階 615.5/HEI)

**田畑 貞寿 (名誉教授)**

- 緑資産と環境デザイン論／田畑貞寿編著．  
一技報堂出版，1999  
(本館閲覧室 3階 518.85/MID)

**土屋 俊 (文)**

- 哲学論集／G. フレーゲ著；黒田亘，野本和幸  
編 分担編集・訳 一勁草書房，1999  
(フレーゲ著作集；4)  
(本館閲覧室 3階 410.96/FUR)

**中野 實 (理)**

- 哺乳類の生殖生化学：マウスからヒトまで／  
中野實，荒木慶彦編著 共編著．一アイピー  
シー，1999 (本館閲覧室 3階 481.35/HON)

**南塚 信吾 (文)**

- アウトローの世界史／南塚信吾著．  
一日本放送出版協会，1999  
(本館閲覧室 2階 209.5/AUT)
- 義賊伝説／南塚信吾著．一岩波書店，1996  
(岩波新書)(本館閲覧室小型 4階 234.7/GIZ)

**[園芸学部分館]**

**飯本 光雄 (園)**

- 農作業学／日本農作業学会編 分担執筆．  
一東京：農林統計協会，1999  
(園芸閲覧室 610.1/N)

**犬伏 和之 (園)**

- 尾瀬の総合研究：福島・群馬・新潟三県合同調  
査／尾瀬総合学術調査団編 分担執筆．  
一前橋：尾瀬総合学術調査団，1999  
(園芸閲覧室 402.9/O)

**古在 豊樹 (園)**

- 閉鎖型苗生産システムの開発と利用：  
食料・環境・エネルギー問題の解決を目指して／  
古在豊樹編著．一東京：養賢堂，1999  
(園芸閲覧室 615.5/H)

**田畑 貞寿 (名誉教授)**

- 緑資産と環境デザイン論／田畑貞寿編著．  
一東京：技報堂出版，1999  
(園芸閲覧室 518.85/R)

(50音順 敬称略)

**行 事 日 誌 (平成11年12月～平成12年1月)**

- |       |   |        |                                       |
|-------|---|--------|---------------------------------------|
| 12月3日 | 第32回関東地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議(山梨医科大学)     | 12月20日 | 平成11年度第4回附属図書館運営委員会                   |
| 12月7日 | 平成11年度第3回外国雑誌検討委員会<br>第2回附属図書館将来構想検討委員会 | 1月20日  | 国立大学附属図書館事務部長会議<br>(群馬大学)             |
| 12月8日 | 国立大学図書館協議会東地区<br>シンポジウム(横浜国立大学)         | 1月20日  | 千葉市図書館情報ネットワーク協議会<br>第3回研修会(アジア経済研究所) |

千葉大学附属図書館報 [図書館の本] No. 74 平成12年2月15日発行

発行 千葉大学附属図書館 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33  
Tel. 043-251-1111(代) Fax. 043-290-2266 URL: http://www.ll.chiba-u.ac.jp/

千葉大学附属図書館報

# 図書館の本

No. 75 2000. 7

ついに21世紀の図書館が到来する	1
〈電子ジャーナル体験記〉	
雑談「電子ジャーナル」	3
電子ジャーナルの利用について	5
亥鼻分館所蔵古書コレクション目録刊行	6
ライブラリー・トピックス	7
教員からの寄贈著書	8
運営委員会名簿・人事異動・行事日程	9

## ついに21世紀の図書館が到来する

附属図書館長 土屋 俊

### \*はじめに

平成10年度に附属図書館長に就任したときには、こう考えていた。「電子図書館だ、オンラインジャーナルだと言っても、しょせんまだ実験的、試行的な段階だ。これからの任期2年間でそれほど問題になることはないだろう。」しかし、この予想がきわめて浅はかであったことは、すでにみなさんのよく知るところであり、平成11年度からは Science Direct 21、平成12年度からは IDEAL (International Digital Electronic Access Library) が大規模に導入されつつあるほどである。

実はそれより前、この館報に寄稿したとき、「図書館業務の自動化、電子化が十分でない段階で電子図書館なんていう夢物語はやめたらどうか」という苦言を呈したこともあった。しかし、この苦言もあまり役に立つことがなく、平成12年度末に導入予定の図書館用の新システムでは、もはや電子図書館システムと図書館業務電算システムは一体となり、図書館の業務だけでなく図書館が扱っている内容そのものが情報化、電子化の対象となったことが明白になっている。

このようにして、大学図書館に関しては、予想はずれるべく運命づけられているにせよ、附属

図書館長として今年度再任されたことを契機として、あえてふたたび将来を展望してみたい。これまでの2年間は、学内のさまざまに関係する人々のご協力を得てきたことを感謝するとともに、今後2年間についても同様にご支援、ご指導をいただきたいとお願いしたい。

### \*学習図書館としての大学図書館

大学における図書館の役割は、通常2つに分けて論じられている。すなわち、研究と学習である。アメリカの大きな大学などでは、Research Library と Undergraduate Library というような呼び方で、建物自体が別になっているようなところも多い。この区別を前提とすると、日本の国立大学、とくに千葉大学のように多くの学部からなる総合大学の附属図書館は、いままで中途半端な性格を持っていたように思われる。すなわち、建物としては学生、とくに学部学生が利用する学習支援の図書館であるのに対して、実際に扱っている図書は研究用の図書のほうがはるかに多いという状況である。

千葉大学の西千葉本館の場合、学生の方々から見たときには、開架書庫と閲覧室、そしてパソコ

ン設備がすべてのように思えるかもしれないが、実際には、各学部、研究科の研究室が購入した図書が分類登録され、研究のために利用される部分の方が大きいくらいなのである。しかし、大学で学習する学生、そして、さらに、一般市民のみなさんが勉強するために使える図書館であることは、これからの日本における高等教育の充実のためには最大の前提となることは間違いない。現在、さまざまなマスコミなどの論調では、学生はその学力低下について、教員は研究偏重教育軽視について批判を受けることが多い。

このような批判をかわすことが目的なのではないが、大学として当然のこととして、学生は勉学に励み、教員は熱心な授業を展開するべきであり、その効果を十分にあげるためには、図書館へ来れば必要な資料が、書籍であれ、雑誌であれ、ビデオテープであれ、インターネット経由の電子図書館であれ入手、利用できることが可能でなければならない。実は、千葉大学は全国の国立大学のなかで比較すれば、そのような図書館にするための努力が全学的になされている方なのであるが、どう考えても現状は、学生と教員の本来の要求に応えるものとはいえない。第一に、閲覧席が足りないし、書架も満杯に近い。第二に、インターネットなどを利用できる環境は、他大学よりは、ややよいとはいえ到底満足できるようなものではないが、パソコンを置く場所はもうほとんどない。

このような状況を認識して、今一番重要な課題として、西千葉本館の建物を改築増築を含めて再整備する計画を立案している。各方面に対する働きかけを行なっているが、その説得力をますためにも、是非学内のみなさん、教職員と学生のみな

さんから、どのような図書館が欲しいかをさらに広くうかがいたいと考えているので、是非ご意見をお寄せいただきたい。

### \*止められない電子化

一時期の「IT革命」の連呼はやや鎮静化しつつあるとはいえ、われわれの先進国社会がその基盤構造の電子化、情報化、ネットワーク化をいつのまにか決断してしまっていたことはもはや覆すことができない事実である。この状況は、大学のような社会、すなわち、知識と情報が重要な価値である社会では一層重大な意味を持つ。ところが、奇妙な皮肉は、かつてはインターネット利用やマルチメディア環境では先端をいていたはずの大学が、いまや社会全体の圧倒的な電子化の動向のなかで、一瞬のうちに後進領域になってしまったということである。大学は、教育においても研究においても、置いてきぼりを食わないように必死に努力して社会の電子化に追いつかなければならない立場になってしまった。

今千葉大学では幸いにも、冒頭に述べたオンラインジャーナルや主要なデータベースを利用することが可能であるし、何十チャンネルもの海外衛星放送を本館内で視聴することができる。しかし、それでも、社会に流通している重要な情報をリーズナブルな予算の範囲で、過不足なく大学で学習、研究するさまざまな人々に提供するまでには至っていない。そのことを実現するためには国立学校の会計手続きの改善や学生利用者の著作権意識の改革すら必要であることが、判明しつつあり、ここでもまた、教職員、学生の方々の一層のご協力が必要となっている。



〈電子ジャーナル体験記〉

## 雑談「電子ジャーナル」

文学部教授 宮 埜 壽 夫

S：今度入ってきた電子ジャーナルのことですが、本当に便利なものでしょうか？

T：便利もなにも使ってみなければ分からないと思うけど、まあ、図書館の次世代を考えたサービスということで気楽に利用してみたらどうでしょう。館長には何とか約束という言葉もあるくらい、あてにならないところもあるけど、先を読むことでは定評があるから、きっと面白いサービスだと思いますよ。

S：図書館のホームページに入って、電子ジャーナルの項をクリックですか？他のいろんな項目に混じってちょっと分かりにくいけど、ありました。あれ？電子ジャーナルの横に Science Direct, IDEAL とありますが、どういうことですか？

T：これはこのふたつの会社の電子ジャーナルにアクセスできるということで、探したい雑誌に応じてどちらかをクリックすればよいのです。もっとも雑誌がどの会社で扱われているか知らないと都合が悪いよね。出版社でいうと、Elsevier と Academic Press に対応しているけど。

S：それじゃ、Science Direct の方にまず入ってみます。見たい論文のありそうな雑誌を探すためには、「Journal」の項をクリック…、いろんな学問分野が出てきましたが、Psychology というのはありませんよ。

T：Social Science の項をクリックすると、その中に Psychology がありますよ。

S：ありました！心理学って、社会科学系なんだ？さて、検索するには、Search をクリック…、Basic と Enhanced のふたつの検索モードがありますが、どうしましょうか？

T：今回は Basic でいいんじゃないですか？キーワードと検索する範囲、つまり雑誌の属する分野や発行年を設定するだけで、結構絞り込まれますよ。Enhanced は、自分で検索のための論理式を作成して検索するモードで、もう少し電子ジャーナルに慣れてからでいいでしょう。

S：それでは、Basic でキーワードを入れて、検

索！何個か論文が見つかったようですが、心理関係の雑誌だけではないようですね…ふうん、わたしの研究は認知だけでなく Econometrics や OR といった分野にも関係してるんだ。

T：他の雑誌も探してくれるのは電子ジャーナルならではの機能だね。それでは、検索された各論文タイトルの下にある Abstract の項をクリックして、各論文の要約を見てください。

S：要約を見ると3件、面白そうな論文があります。論文の本体は Journal Format (PDF) をクリックすると、自分の計算機にダウンロードできるのですね。

T：ダウンロードした論文は、Acrobat Reader で読むことができるし、印刷もできます。雑誌とまったく同じで、まるで雑誌が自分の手元にあるような気分でしょう。

S：雑誌によっては、論文タイトルの下に Abstract, PDF ではなく、Summary Plus, Article, Journal Format (PDF) とありますが、この Summary Plus というのは単なる Abstract ではないようですね？参考文献をまとめたものと思いますが、Reference という項も入っています。

T：そう、電子ジャーナルらしいのがこの部分で、Reference にある論文はこの論文にリンクされているので、すぐに見れるのです。もっともこの場合は、Science Direct に収録されている雑誌に限られますが。

S：じゃ、IDEAL に収録されている雑誌の論文はここからは見れないのですか？新しいといっても古臭い垣根はあるのですね。

T：両方の収録雑誌がリンクされていることはないようです。リンクされれば、もっと便利になるでしょうね。誰がしてくれるのか分からないけど…。

S：ところで、IDEAL には Reference の他に Cited By という項がありますが、これは何ですか？

T：Cited By は論文が引用されている文献リストです。Reference がその論文より以前に発表

された関連文献のリストであるとする、ちょうど時間的には逆のものになります。電子ジャーナルならではの機能で、従来の文献検索では大変だった部分です。論文の中には、IDEAL Related Articles という項のついている場合がありますが、これも電子ジャーナルらしい機能で、その論文に類似の論文のリストを得ることができます。

S：なるほど、電子化されたことで、いろいろなことができるようになるのですね。でも、まだまだ改善の余地がありそうですね。会社の垣根とか、ごく一部の雑誌しか電子化されていないとか…。

T：そのとおりです。解決されるべき問題はたくさんあります。しかし、使ってくれる人が多くなればそれだけ早く、上手に解決されるものです。これからも電子ジャーナルを研究に活用してください。

注) 図書館のある方のアイデアで、談話形式にしてみました。T、Sをあなたの解釈とは逆にして読んでいただくと現実を反映した談話になります。また、この文章を作成するにあたり藤井都百さん（自然科学研究科後期課程在学）にお世話になりました。お礼申し上げます。

## IDEAL サービス開始

平成12年度より、Academic Press が提供する電子ジャーナルサービスである「IDEAL」のサービスを開始致しました。詳しい利用手順については、附属図書館 HP (<http://www.ll.chiba-u.ac.jp>) の IDEAL (<http://www2.ll.chiba-u.ac.jp/~san/online/ideal/ideal.html>) をご覧下さい。

### 1. IDEALについて

IDEAL (International Digital Electric Access Library) とは、アカデミック・プレス社の出版する176誌の他、W.B. Saunders Ltd. 社と Churchill Livingstone 社の出版するジャーナルから医学関係の60誌が含まれる電子ジャーナルサービスであり、契約すると、その収録されているジャーナル全てが電子的に提供されます。

附属図書館では電子ジャーナルの有効性に注目し、かねてより導入実現の道を模索してきました。その中で昨年度、アカデミック・プレス社の出版する学術研究上重要なタイトルが数多く含まれている IDEAL について試行的導入が決定されました。これを受けて、研究室でご負担いただいている従来の購読料に加え、導入のために必要な差額約250万円を附属図書館が追加負担し、平成12年度から IDEAL の電子ジャーナルの利用が可能となっています。

### 2. IDEAL オープン・コンソーシアム (IOC)

今年度の IDEAL の導入に際して、千葉大学は、筑波大学・埼玉大学・東京工業大学・横浜国立大学の4大学と共に、IDEAL オープン・コンソーシアムを形成いたしました。

IDEAL オープン・コンソーシアム (以下、「IOC」と略します) とは、IDEAL を利用するための仕組みであり、IDEAL を利用したい機関が集まって形成されます。この IOC の形成により、単独契約では実現できない、有利な条件での契約が可能となります (1年間分のバックナンバーの無償提供・ライセンス料金の割引など)。

この5大学の IOC (通称:「JIOC/NU」) による IDEAL の試行的導入は全国から注目されており、今後は参加大学を増やして規模を拡大し、更に有利な契約条件を獲得できるよう、5大学の図書館で協力して活動しています。

〈電子ジャーナル体験記〉

## 電子ジャーナルの利用について

工学部助手 岸本達也

### はじめに

千葉大学図書館では、昨年、幾つかの電子ジャーナル誌と契約を結んでいます。ここでは電子ジャーナルの利用とその利点について、注意点と併せて簡単に紹介したいと思います。

### 電子ジャーナル

「電子ジャーナル」とは、学術雑誌をインターネットなどを通して、オンラインで閲覧、検索、ダウンロード、プリントもできる新しい出版形態の1つです。現在のところ、既にある紙媒体の雑誌を電子ジャーナルでも提供しているところとそうでないところとがあり、電子ジャーナルでないと閲覧できないというわけではありません。しかしオンラインで利用できるということは、これまでのように図書館に足を運び、書棚を探す必要はありません。また、これまでのように必要な文献をコピー機まで運んでいちいちコピーする必要もありません。すなわち無料で雑誌のコピーが、というより電子的に出版された雑誌の「本物」があつという間に手に入ります。大変ありがたいものです。また電子ジャーナル誌では数百・数千種類の雑誌を同時に配信していますので、図書館で「出版物」として購読していない数多くの雑誌でも自由に検索・閲覧することができます。

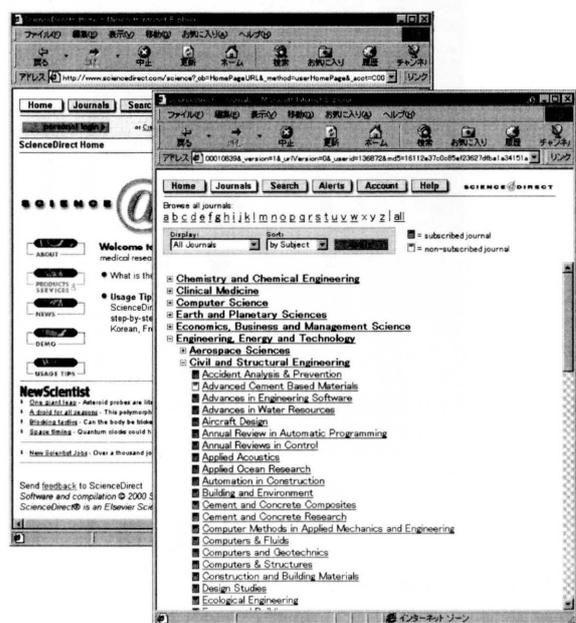
千葉大学図書館では、昨年最初に Elsevier Science の Science Direct というサイトの電子ジャーナルの購読を開始していますが、続々と購読雑誌が増えて、図書館のホームページを見ると大変な数のリストが載っています。Science Direct だけでも1100タイトル以上の論文誌が利用できますし、Science Direct が契約している別のデータベースから他の論文誌の抄録なども同時に検索・閲覧できるようです。一体どれだけの情報が検索できるのか、見当も付きません（サービスを提供する側でも試験的にサービス内容を変えているのか、時によって検索できたりできなかったりしてサービスも一定ではないようです）。千葉大学図書館では、次々と出版社と契約して電子ジャーナ

ル誌の購読数を増やしていますが、今やその全容を把握することは困難なほどになっています。

### 電子ジャーナルの利用に際して

電子ジャーナルの閲覧・ダウンロード・印刷などは、図書館で一括契約しているので基本的に無料です。検索してうまく発見すればその場で閲覧できて大変スピーディーに研究が進められます。しかし、全ての雑誌が電子化されているわけではありませんから、見つからなかった場合は骨折り損になります。特に和雑誌は、まだほとんど電子化されていないのが実状です。それから、現在のネットワーク環境では通信速度も十分ではありませんから、書棚の前でパラパラと本をめくりながらブラウジングするようにはいきません。混雑しているときは、検索だけで多大な時間を浪費してしまうこともありますので注意が必要です。

これからは、図書館内で閲覧できる紙媒体の雑誌を含め、電子ジャーナルや各種データベースなど、膨大な情報の中から上手く利用できるように、各種メディアを一度に横断的に検索できる案内システムのようなものが出来上がるといいと思



Science Direct の画面

います。まだ情報は氾濫した状態で、誰もがそれらの中から容易に必要な情報にアクセスできるような環境は出来上がっていません。しかし、この

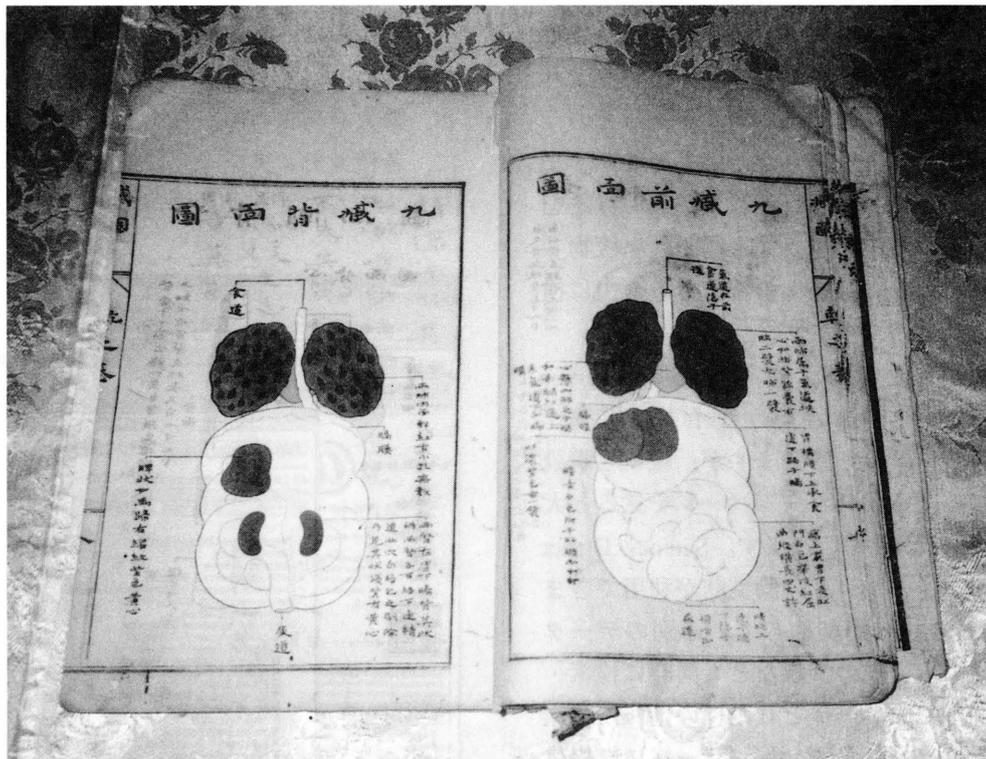
ような便利な最先端のサービスを上手く使いこなしていきたいものです。みなさんも一度、利用してみたいはいかがでしょうか。

## 亥鼻分館所蔵古書コレクション目録（中間版）刊行

本目録は亥鼻分館所蔵の古書コレクションのうち、平成11年8月現在で整理が終了した医学的資料を主とする約1,500冊の目録である。このコレクションは、東洋医学に関する古書の重要なものをほとんど網羅しているうえに、当館にしかその所在が判明していない貴重な古書も多く存在するといわれている。本学眼科の伊東弥恵治元教授が大正8年から昭和20年代にかけて収集した約4,000冊が中心で、それに茂原の千葉弥次馬氏からの約1,000冊、佐倉順天堂の佐藤恒二氏から約350冊、およびその他の寄贈が加わって構成されている。内容は主として江戸時代から明治初期にかけて出版あるいは筆写されたもので、漢方・和方・蘭方・医書・洋書その他にわたっている。

平成5年より始めた本コレクションの書誌学的な調査と、解説付きの目録の作製は、現在その約1/2が終了した段階となっている。まだ作業の途中ではあるが、この機会にとりあえず調査ずみの部分を中間版として出版することにした。これは、県立中央博物館元歴史科長、日本医史学会評議員樋口誠太郎氏の協力によるところが大きい。残る部分についても現在同氏の協力により進行中であり、すべてを終了した段階で内容を再調整のうえ完成版として出版する予定で、その日の近いことが期待されている。

また、本目録の刊行を記念して、目録刊行記念会が平成12年3月14日に亥鼻分館ライブラリーホール及び多目的室にて開催された。



【蔵誌】 山脇東洋 宝暦9年（1759）

山脇東洋は古医方の泰斗として京都で名声を博していたが若い頃より解剖に関心を持ち、従来の五臓六腑説が正しいか実際に検証したいと考え、京都所司代・酒井讃岐守が刑死者の解剖を許し、宝暦四年に我国ではじめての解剖が行われ、この本はそれに基づいたもので人体解剖観臓図志のはじまりである。

## 〈ライブラリー・トピックス〉

### 【文献の配送期間の短縮を目指して】

～学内 DDS 運用試行のお知らせ～

附属図書館では、学内の迅速な文献デリバリー体制の確立を目指して、学内 DDS (Document Delivery Service) を導入しました。

今回導入したシステムでは、文献等をイメージスキャナで読み取り、依頼館に電送しプリントアウトして利用者にお渡しします。従来の学内便での送付を電送に切り替えることで配送時間を短縮し、迅速な文献入手という利用者の要望に応えようとするものです。

従来どおり「文献複写申込書」で申し込んでいただきます。また料金も従来どおりとします。

このシステムは、6月から12月までの間試行運用を行い、平成13年1月から本格運用に移行する計画です。

### 【海外衛星放送が

#### 視聴できるようになりました】

4月から、本館2階視聴覚室において、海外衛星放送が視聴できるようになりました。4階屋上に、アジアサット2号 (ASIASAT-2 香港アジアサット社の第2号衛星) およびコリアサット3号 (KOREASAT-3 韓国国営衛星の3号機) の2衛星の受信用パラボラアンテナ2基を設置し、テレビモニタ及びチューナーなどの受信関係のシステムを2階視聴覚室に設置しました。視聴できるのは、ヨーロッパ各国、サウジアラビア、インド、中国、韓国など33チャンネルです。1階ホールのBBC、CNNも含めて最新の海外情報の収集にお役立てください。視聴にあたっては、ヘッドホンが必要です。受付カウンターでヘッドホンを借りて、2階視聴覚室でご利用ください。

### 【サービス窓口の変更 (本館)】

平成12年4月から、本館のサービス窓口が下記の通り変更になりました。

- レファレンスサービス (参考調査),  
 図書館の閲覧・貸出,  
 館内施設の利用

閲覧・参考係 (新館1階)

内線2258,2259, etsu@ll.chiba-u.ac.jp

- 学外への文献依頼 (複写・借用),  
 他大学への紹介状,  
 共通閲覧証の発行

相互利用係 (旧館2階)

内線2260, sougo@ll.chiba-u.ac.jp

- 図書館ガイダンス,  
 CD-ROM, 情報検索サービス

情報サービス企画係 (新館1階)

内線2262,2263, kikaku@ll.chiba-u.ac.jp

### 【教職員の図書館利用者カードの 磁気カード化について】

本館では、4月から、教職員の利用者カードを紙製カードから磁気カードに変更することになりました。図書館の入館ゲート、図書自動貸出返却装置の利用が可能になります。カードの発行については、申込が必要です。受付カウンターで「利用者カード申込書」に記入の上、お申し込みください。

### 【亥鼻分館月末開館時間変更】

平成12年度から毎月月末 (月末が土曜日または日曜日の場合は直前の金曜日) には館内整理のため昼間は休館し、17時から21時45分までのみ開館します。

また、昨年度までは毎月第4木曜日に休館していましたが、これを廃止し通常どおりの開館とします。

## 【平成12年度（4月－5月）ガイダンス実施報告】

### 【本館】

新入生オリエンテーション	(4/10-13：532名)
新任教員ガイダンス	(4/14：42名)
留学生ライブラリートツアー	(4/19：18名)
千葉大学の図書雑誌を探す	(5/9,18,26：15名)
図書館でパソコンを使う	(4/18,20,24-25：143名)
てってーてきに本を探す	(5/10,19：10名)
てってーてきに調べる	(5/23：20名)
新聞記事を探す	(5/29：12名)
LEXIS-NEXIS 検索入門	(5/29：13名)
ゼミ・講座別ガイダンス	(4/19,21,24,26,5/9-11,17-18,25：234名)

### 【亥鼻分館】

利用案内	(4/7,10：200名)
ライブラリートツアー, 文献検索	(4/10-13：125名)
文献検索	(4/10,19：62名)
文献検索, CD-ROM検索	(4/10,27：140名)
CD-ROM 検索	(4/20,5/10,17,23-24：86名)

### 【園芸分館】

図書館利用ガイダンス	(4/26-28,5/8-10：22名)
------------	----------------------

## 教員からの寄贈著書（平成12年2月～12年5月配架分）

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

### 【本館】

#### 井上 良二（法経）

- ・会計社会学／井上良二著．－中央大学出版部，1984（本館閲覧室3階 336.9/KAI）
- ・新財務諸表論／井上良二著．－税務経理協会，1999（本館閲覧室3階 336.92/SHI）
- ・財務会計の進展／井上良二編著．－税務経理協会，1999（本館閲覧室3階 336.9/ZAI）

#### 高橋 久一郎（文学）

- ・応用倫理学の転換：二正面作戦のためのガイドライン／川本隆史，高橋久一郎編．－ナカニシヤ出版，2000（本館閲覧室2階 150/OUY）

#### 土屋 俊（文学）

- ・東京地域アカデミックネットワークのあゆみ：TRAIN 活動報告書／林英輔[ほか]編．－TRAIN 協会，2000．－分担執筆．（本館閲覧室3階 549.92/TOK）

#### 中澤 潤（教育）

- ・心理学マニュアル面接法／保坂亨，中沢潤，大野木裕明編著．－北大路書房，2000（本館閲覧室2階 146.3/SHI）

### 松葉 育雄（工学）

- ・非線形時系列解析／松葉育雄著．－朝倉書店，2000（本館閲覧室3階 417.6/HIS）

### 丸山 英気（法経）

- ・マンションの建替えと法／丸山英気著．－日本評論社，2000（本館閲覧室3階 365.35/MAN）

### 三宅 洋一（工学）

- ・デジタルカラー画像の解析・評価／三宅洋一著．－東京大学出版会，2000（本館閲覧室3階 547.8/DIG）

### 村山 元英（名誉教授）

- ・組織理論と組織行動の視座／B.トイン&D.ナイ編，村上元英監訳．－文真堂，2000（本館閲覧室3階 335.5/SOS）

### 山賀 正人（総合情報セ）

- ・量子ドットへの誘い：マイクロエレクトロニクスの未来へ／R.タートン著；福山裕之，山賀正人，大坪一彦訳．－シュプリンガー・フェアラーク東京，1998（本館閲覧室3階 549.8/RYO）

## [亥鼻分館]

## 井上 智子 (看護)

- ・感覚機能の障害と看護：感覚・知覚機能が変化・喪失した人々／井上智子，鈴木晴彦編集。  
—廣川書店，1999（亥鼻閲覧室 WY150）

## 上田 志朗 (薬学研究科)

- ・神経・内分泌・循環器／井上圭三監修；岩坪威他編。—東京化学同人，2000。—共同編集  
（亥鼻閲覧室 QV704）
- ・消化器・呼吸器・血液・泌尿器／井上圭三監修；岩坪威他編。—東京化学同人，2000。  
—共同編集（亥鼻閲覧室 QV704）
- ・免疫・がん・感染症／井上圭三監修；岩坪威他編。—東京化学同人，2000。—共同編集  
（亥鼻閲覧室 QV704）

## ●お詫びと訂正●

前号（74号）の9 P，宇佐美先生ご寄贈分「大学の授業」の出版社が誤っていました。東信堂に訂正し，お詫びします。

## [園芸学部分館]

## 赤坂 信 (園)

- ・新・町並み時代：まちづくりへの提案／全国町並み保存連盟編著。—学芸出版社，1999。  
—分担執筆（園芸閲覧室 518.8/S）

## 古在 豊樹 (園)

- ・オランダ留学便り／古在豊樹著。—ライフリサーチプレス，1999（園芸閲覧室 615/O）

## 小林 達明 (園)

- ・自然と結ぶ：「農」にみる多様性／田中耕司編。—昭和堂，2000。—分担執筆  
（園芸閲覧室 361.7/K/3）

## 松井 弘之 (園)

- ・果樹園芸／志村勲[ほか]共著。—第2版。  
—文永堂出版，2000。—分担執筆  
（園芸閲覧室 625/K）

(50音順 敬称略)

## 千葉大学附属図書館運営委員会名簿 (平成12年5月1日現在)

附属図書館長	土屋 俊	工学部	小倉 克之・勝浦 哲夫
亥鼻分館長	安達恵美子	園芸学部	油井 正昭・三位 正洋
園芸学部分館長	油井 正昭	医学部附属病院	里村 洋一・田邊 政裕
総合情報処理センター長	島倉 信	大学院社会文化科学研究科	村岡 英裕
文学部	佐藤 博信・三浦 佑之	大学院自然科学研究科	古森 雄一
教育学部	末吉 貫爾・稲垣佳世子	留学生センター	後藤 春美
法経学部	金原 恭子・小柏喜久夫	外国語センター	田端 敏幸
理学部	大橋 一世・小山 範征	環境リモートセンシング研究センター	橋本 俊昭
医学部	矢野 明彦・大沼 直躬	真菌医学研究センター	山口 正視
薬学部	濱田 康正・望月 眞弓	事務局長	杉浦 哲郎
看護学部	吉本 照子・宮崎美砂子		

非 公 開

非 公 開

行 事 日 誌 (平成12年 3月～6月)

- |       |  |       |  |
|-------|--|-------|--|
| 3月1日  | 平成11年度第5回附属図書館運営委員会                                | 5月12日 | 平成12年度「千葉市図書館情報ネットワーク協議会」総会<br>(於：千葉市緑区役所) |
| 3月6日  | 図書館組織・機構特別委員会<br>(第4回) (於：筑波大学)                    | 5月23日 | 平成12年度国立大学附属図書館事務部課長会議 (於：東京医科歯科大学)        |
| 3月24日 | 平成11年度「千葉市図書館情報ネットワーク協議会」第3回理事会<br>(於：千葉センシティブタワー) | 5月25日 | 平成11年度第4回国立大学図書館協議会理事会 (於：東京大学)            |
| 4月21日 | 平成12年度「千葉市図書館情報ネットワーク協議会」第1回理事会<br>(於：千葉センシティブタワー) | 5月26日 | 平成12年度第1回附属図書館運営委員会                        |
| 4月28日 | 第56回関東地区国立大学図書館協議会総会 (於：宇都宮大学)                     | 6月28日 | 第47回国立大学図書館協議会総会<br>(於：金沢大学)               |

千 葉 大 学 附 属 図 書 館 報 [ 図 書 館 の 本 ] No. 75 平成12年 7月10日発行

発 行 千 葉 大 学 附 属 図 書 館 〒 263-8522 千 葉 市 稲 毛 区 弥 生 町 1-33  
Tel. 043-251-1111(代) Fax. 043-290-2266 URL : <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/>